

史料翻刻

木下鞆村日記 (九) ③

島 善 高

嘉永二年己酉正月元日 晴
御禮出仕

同二日

回勤

同三日

同断、昼比夕在宿、夜石井蓼溪来、醉中作字、余眉和顔作、
一甕春醸為君開、坐覚東風滿面来、和氣薰人元如此、况還星移動庭
梅

同四日

学校出勤

同五日
内坪井一両所回勤之上、菊池江罷越、村田江立寄、夜二入古耕廬江
着、拝顔、御供、水本宅之様相越、社参、墓参等仕舞

正月六日

桑満先生(伯顯)・阿部大順(医卿)、大順同道、吉村喜兵衛(後表多夜父)江初而罷越、暮方引
取、志方(小左衛門)・中町當年禮之上、今村江引取、栃原五郎助(時習館訓導)兔狩江参、赤
星江滞留仕候二付尋

同七日

栃原古耕廬(五郎助)之様参、平野山狩、自身八東福寺山内裡尾墓参、北原江
年禮、暮方川向ニテ狩手ニ逢、今夜古耕廬江同宿

同八日

昼古耕廬を打立婦府、赤星迄^(五郎助)栃原同道、碁酒、七ツ比引分レ、尉助召連婦府、夜五ツ過着、宇十郎^(彌村子)二三日不氣分ニ有之候由、高橋員熊^(弘化四年四月十八日参照)熱有之

同九日

員熊^(高橋)熱覚、終日休息

同十日

内坪井・京町年禮

同十一日

家内連、柿原成道寺二遊、徳永^(礼八)・福島^(龜之丞)・江藤、追而至ル

同十二日

木村次郎左衛門方・佐藤家・林家・田代雄次郎^(小姓役)、年礼状仕出

〔以下十九日まで朱筆〕
同十三日

出初、開講、御土器頂たい

同十四日

宇十郎^(彌村子)新堀ニて左義長見物
木下初太郎^(南四手水巻庄屋)・竹崎律次郎^(阿蘇郡西原村出で開巻)・福嶋龜之允^(嘉永二年河原水巻庄屋)・隈部徳七^(定成手水巻庄屋)・町野玄爾^(医業吟味副役)、設謙

鹽谷甲藏^(谷陰)送序送り来ル、安井息軒^(アサ)越町隼町ニ移住之由 ○蘭人去年

風説書、西洋諸州飢饉、佛郎西政事奇細ニ付一揆蜂起、把レイスノ都ニ押寄三日合戦、官軍敗レ、佛王國族ヲ率テ英夷へ出奔ノ由、去年正月十八日之事也、又疏求江参り居候佛人、去四月中二引取候由、是ハ薩士彦助^(橋口)か咄のよし、塩分^(塩谷)申越

同十五日

出勤、夕方^(玄徳)町野宅詩会、澤村列舊社也、得鳥字、越鳥久学南枝鳥、舊社鷗興縁古了、秋海帰帆波浪餘、春堂美酒風塵表、故人為夢半微茫、新調入歌皆窃窺、尋去前身似得吾、依然酒月在松杪

同十六日

大学、出勤、夕方^(久太郎)村上^(式右衛門)・国友来話

同十七日

出勤、文会^(五郎助)橋原宅受持

同十八日

出勤、雨、但旧年冬中夕雨なし、井泉多涸

同十九日

出勤、講堂詩会

同廿日

漢書、出勤、史、家内菊池江行

正月廿一日

漢書、出勤、史、平山源作、吉村庄太郎出府

同廿二日

出勤、上村彦次郎招諸先生

同廿三日

出勤、史

同廿四日

出勤、中庸、詩經、(韓村弟)小太郎・恒太郎(韓村甥、徳水礼八子)出府、足助・宗右衛門至

同廿五日

風邪ニテ引入、(韓村弟)小太郎・恒太郎(韓村甥、徳水礼八子)帰、家内帰宅、阿部建令出府

同廿六日

大学、風邪ニテ同様、足利江去五月被差立事ニ付取計之始末、太略相認為見候様(高橋)弥四郎(高橋)今噂ニ付認遣候

同廿七日

風邪ニ而同様

同廿八日

出勤、早引、菊池江罷越、尤寄暇日を以罷越候事、暮ニ着

同廿九日

先君子大祥、親類縁者打寄、此夜与諸弟上墓、以雨而帰

同卅日

墓参

二月朔日(嘉永二年)

帰城 ○城野兄以其所作字見示、因有此寄 ○椽筆縦横畫壯心、直看壁立勢千尋、北山自有龍蛇氣、何必南州問拜禽

暮ニ帰着懸北野隆(前定根取)右衛門江尋候處、家内案内ニテ罷越居候

同二日

出勤 罷越 ○下河邊(菊池今村高主)甚左衛門去ル十八日死去ニ付為知有之居、今日吊儀

同三日

出勤、史 ○立町市、同国友定雄案内ニ付罷越 ○昼之内、野村傳(元若殿附)左衛門方江為欲罷越、同人隠居被仰付、嫡子一衛御加增高とも二家

督被仰付候

同四日

中庸、詩經 ○去ル三日夜、居寮詩会出 ○伍胥祠 伍相古祠依翠
微、東門草木對殘暉、吳山日落塗空遠、江水天寒人不帰、尸上鞭聲
春慘々、墓前劍氣夜輝々、蘆中應有五湖路、一棹無船迎客飛

同五日

宅詩会請持、貧女 桃花柳葉与心孤、不識人間有宴娛、纔免負租從
縣吏、何嘗抱布卜金夫、寒機燭影宵無焰、露井霜華曉裂膚、可恨春
蠶繭似玉、仕絲只解煖歌姝

二月六日

大学、講堂紀事

同七日

漢書、出勤、市立、天氣よろし

同八日

言行録、出勤、左傳

同九日

漢書、出勤、史、周禮小司徒之職

同十日

詩会、(五郎助) 榎原請持

同十一日

漢書、出勤、八家、(疾部) 吉田順碩江練葉懸合、一劑二十五匁

同十二日

出勤、史、門岡員右衛門江昨年於江戸借渡居候金二両返し来ル、与
門岡飲 (員右衛門)

一、貴殿儀於江戸御蔵板出来之節、御用懸被 仰付置、成就之上御
寄納、且後年煩敷儀等起不申様御取計旁、足利学校江被差越、内
輪厚御心配有之候二付、御書物一部并白銀三枚被下置旨、学校方
御奉行中今申来候条、左様可有御心得候、已上

二月十二日

(留守中 小姓頭 堀七郎 兵衛方)
堀次郎 兵衛

右二付、堀方江御受、(久次郎) 稲津氏江吹聴

一、木村次郎太郎方江片岡・橋谷・門岡申談、今夜罷越、九ツ過引

取

同十三日

言行録、史、左傳

同十四日

妙解寺參拜、出勤、詩經、足助論語 部屋床板張
長屋住居付

同十五日

長屋住居付門仕直シ

中山九右衛門宅江罷越、詩社打寄、九右衛門二男儀八郎、江戸遊学

仕候ニ付祝席也、題問名考事 吾嘗仔細諳、文風宗不一、益者友唯

三、秋雨愁林露、春煙愛柳含、関西近寥寂、寧英出奇男

一、拝領之尚書正義、昨日高橋方江受取

一、去年跡江残置候匯參・孟子・日知録、其外蚊屋・寝卷・諸雜具

等、大廻二渡部源左衛門分仕出、十月五日出帆之柏屋安右衛門

船、下關邊ニ而難船覆沒いたし、箇物處々江流寄候内、手前箇物

半櫃一ツ、散々破碎ニ及、櫃板等取集届来、潮浸之書六七冊已有

之、其外ハ流失仕候

二月十六日

大学、出勤、長屋住居付、早引

不快、引入

同廿日

同様、評高子訥追韻三十律

同廿一日

出勤、史

同廿二日

朝高橋弥平(時習館講堂生)・森村宗四郎・太田次郎太郎列、大学会初

同廿三日

言行録、出勤、史、夜左傳相断、但頭痛

同廿四日

出勤、中庸止、詩經

同廿五日

郊外詩文會延引、出勤

同十八日

言行録、出勤、中庸、夜分高橋方招ニ付罷越、感冒之氣味ニ而引取

同十九日

出勤

同廿六日

同廿七日

郊外詩文会、本庄堀氏別業 ○今昼過分〔釋村七〕宇十郎發熱 ○大城太郎右衛門・松原傳〔作事所目付〕右衛門・本間盛助・桑嶋貞之助・田代雄次郎〔若殿近習〕・平井勘右衛門・兩角權助・大坂猪股才八江書狀仕出、田代鏗三郎〔田代雄次郎弟〕狀添仕出 ○當夜五ツ比、尾形謙受來診〔醫師〕

同廿八日

小兒同前、全痘序之躰ニ相見、夜分町野玄肅會診〔医業吟味副役〕、當夜八ツ過臈ヲ發、野町來療 ○今日出勤、早引

同廿九日 雨

不快引入達、宇十郎痘見點、夜四ツ比解熱、此月小尽〔釋村七〕

三月朔日 晴〔嘉永二年〕

病兒無異狀、見點相濟、面部見五六十

同二日

病兒無異狀、菊池江之便、昨日久住治兵衛江一封頼、今日松本藤四郎・関網彦江相頼、一封仕出、不快引入

同三日 佳節

病兒痘、貫膿ニ赴ク

三月四日

出勤、早引、痘兒無異狀、恟氣起、小太郎出府〔釋村弟〕、丑三郎書至、宇一〔釋村姪〕種痘打立候由

同五日

不快引入 ○今日詩会、片山受持〔寫三郎〕 ○痘無別条、貫膿ニ相成

同六日

不快引入、痘無別儀、小太郎帰〔釋村弟〕、草野平藏・竹田津辰藏〔諸役人段草野専次控、御丁手水脚山支配夜諸役人段竹田津志摩右衛門男〕・成田嘉次郎入塾〔參校〕

同七日

出勤、早引、痘収靨ニ赴ク、昨夜今安睡

同八日

出勤、早引、痘□痂至踵、面頰則落

同九日

出勤、早引

同十日

不快引入、郊外詩会自分受候處、就病兒、栃原受持〔五郎助〕、今日笹湯

同十一日

出勤

同十八日
中庸、出勤 ○木下初太郎旅宿を訪

同十二日

出勤

貴殿儀、講堂居寮江も日々御出方有之、詩文之御世話・会讀へも御誘候様被 仰付置候二付、為御心附毎歳銀五枚宛被下置旨可申達旨、御奉行中今申来候条、左様可有御心得候、以上

三月十八日 即御請二参ル

(留守居中小姓触頭)
堀七郎兵衛

同十三日

出勤

覚 切延堅紙折懸、上書ニ宗門覚書、姓名切支丹宗門之儀、従前々無懈怠、今以相改申候、先年従 公義被

同十四日

出勤、早引、姪木下宇一種痘發候由申来、尤極安痘也、右ニ付菊池罷越、暮二着、痘兒壯驕、面部二十餘、うるわしく見工候

迄、堅相改申候處、不審成者無御坐候、尤觸状判形取置申候、若相替儀御坐候ハ、急度可申上候、為其如此御坐候、以上
嘉永二己酉年三月 殿 判

同十五日

掃先塋、小太郎宅ニ休息、(蘭痴)高山謙・(土)河原手水庵庄(應)福島龜至、夜話逗留

三月十九日

講堂詩会、左傳、(韓村弟)徳太郎出府

同十六日

(韓村弟)小太郎門人五人見分、臨講下見いたす、昼比今打立帰府、出勤、晩出

同廿日
出勤、史

同十七日

郊外文會、(五郎助)栃原受持、出勤、返り懸村田三折・(医師)清原方・(小左衛門)加々山尋ル

同廿一日
出勤、(右衛門)国友不快二付、史休

同廿二日

大学、出勤

同廿三日

言行録、出勤、史

同廿四日

出勤、中庸、詩經

同廿五日

郊外詩文会、一日亭（室松井家下屋敷）

同廿六日

大学、出勤、御題被 仰出、
賦得鶯囀皇州春色闌、觀射獵圖、子張學于祿章義、弓說

同廿七日

出勤、史

同廿八日

言行録、夜塾中論語会始、出勤

同廿九日

出勤、史、周禮

四月朔日（嘉永二年）

休暇、阿蘇殿、清成方江招待二付為取持罷越、澤村宮門・加々山権内・（時習館調尋）

石井茂助・中山九右衛門同往、夜深帰、席上詩アリ（朱）「清成氏宅賦

呈阿蘇公」

名山振古吐靈光、氣饒誰攀萬丈長、施設新看借書啓、英豪不免托文章、晴和猶住春風塵、輝映會期輝斗傍、談笑何妨永此夕、芳缸花撲

酒杯香

同二日

大学、出勤

同三日

言行録、夕方木村徳太郎江集會、夜帰、菊池下人差出

同四日

（釋村弟）小太郎縁組之事二付内用差起、今日早出、暇日并帰省相替、五ツ比より打立、中富手永千田之様立越、西方夕夕刻着

四月五日

今日郊外詩、手前受持二候處、在郷江罷越候二付、栃原江頼（五郎助） ○夜分旧里二高山謙太至、縁談二付内話（備懸）

同六日

平山源作・河原才右衛門・桑満翁〔伯頼〕、各々痘亡児悔ミ申候、城野熊八も同前也、徳五郎娘安痘見舞、福島亀〔龜之丞〕ヲ問、深川通ニテ赤星之様参ル、夜分謙太〔高山〕、岡田〔高田〕ハ瀬戸口江踏回り帰る、内話いたす、雨中二引取

同七日

おひさ、合志御家人首藤善兵衛江縁組、今日引越、善兵衛并吉川穆節・首藤寛次・大津忠蔵・赤塚惣平始罷越、丑三郎〔鞆村弟〕・小太郎〔鞆村弟〕・徳五郎・宗四郎、お久召連参る、雨

同八日

帰府、謙太早朝来ル、談話、途中立寄、種痘医高橋駿甫参り合七居候

同九日

出勤、史

同十日

郊外詩会、受持 ○平野三郎兵衛〔平取次〕・林富之助〔小姓区〕出立ニ付暇乞 ○徳太〔鞆村弟〕郎出府

同十一日

出勤 ○八家 ○小太郎婚姻参り不得〔鞆村弟〕

同十二日

大学、出勤、史 ○大宮司殿旅館ヲ尋、鎌田隠居・上村・下津熊人方〔同坐〕

同十三日

言行録、出勤、史休

同十四日

早出、早引 ○御實日、御寺参拜、帰り懸辛川方江立寄、暫滞話八ツ比引取 片山喜三郎居寮世話被致し講堂江も罷出相誘候様、就而毎歳八木拾俵宛被下置候ニ付、御達有之 ○今日出懸、阿蘇殿江相伺、□撰之大学ニ説被為見、添削いたし候様との事 ○徳太郎〔鞆村弟〕菊池江行

同十五日

在宿

同十六日

大学、出勤、永田〔二郎兵衛〕・沼川論語会 ○門岡忠蔵明日出立、今夜罷越、徳太郎〔鞆村弟〕帰ル

同十七日

文會受持相濟候上、山口先生を招、〔五郎助〕櫛原・〔宗次郎〕上村滞り圍碁

同十八日

言行録

同十九日

漢書 ○講堂詩会、周礼、大河原左傳

四月廿日

漢史休讀、史

同廿一日

史、論

同廿二日

○私共儀、〔細川慶前〕泰澗院様御一周忌御法事御執行、右之節乍恐御寺詰

仕度奉願候、此段宜敷被成御達可被下候、以上 四月 片岡
木下

當無シ

右之通願出置候處、今日明日兩日於妙解寺御法事御執行之御達有之、右願書ニ御用番江相達候處、願之通御寺詰被 仰付、詰方之儀ハ御小姓頭江承合候様被 仰付候、尤今日御逮夜御法事宿忌、昼四ツ時ニ付六ツ半〔合所撰取〕片岡忠右衛門同道罷出候、服長上下之事、四ツ半

比相濟、今晚開静夜九ツ時

同廿三日

御當朝御法事、夜九ツ時今相詰、献粥、曉八ツ時施食、七ツ時半齋、六ツ時相濟候上拜禮、六ツ半過引取
但昨日今日兩日右願詰ニ付、学校出席不仕候

同廿四日

〔鉄太郎〕月田事ニ付〔五郎助〕櫛原書面至、上堂之上〔英助〕近藤先生對話有之 ○詩經会讀、夜塾中論語会

同廿五日

出勤 ○郊外詩文会ニ付、御題結撰持出ニ可相成處、未夕数多揃不申候ニ付、来月五日ニ延候事 ○〔式右衛門〕国友来、圍碁

同廿六日

大学、出勤 ○〔徳川齊彊〕紀伊大納言様去月廿七日御逝去ニ付、昨日今日数五日諸事穩便ニ相心得候様

同廿七日

史、寺尾論語

同廿八日

言行録、中庸、論語

同廿九日

早出、早引、菊池江罷越、此月小尽

閏四月朔日 在菊池
(嘉永二年)

同二日

在菊池、此日帰省之日数也

同三日

帰府、出校

同四日

中庸休会、詩經、夜論

閏四月五日

郊外詩会、(五郎助)橿原受持 ○(勘定根取)北野隆右衛門金子拝領二付、夜分罷越
(元橋繁生)右田弁作、昨日死去仕候知有之

同六日

大学、講堂紀事、夕論、夜論

同七日

漢書、出勤 ○(元橋繁生)右田弁作於蓮政寺葬式相営、会葬 ○夜渡部才右衛門至

同八日

出勤、昨日(韓村表多の函題)今高橋夫婦椽木入湯、(韓村上)宇十郎夜分留守番二罷越

同九日

漢書、史、周禮

同十日

郊外詩会、(五郎助)橿原宅

同十一日

漢書、八家

同十二日

大学、史

同十三日

不快二付早引

同十四日

不快引入

同十五日

〔南四手、忠庄屋〕
木下初太郎御用、作御紋御羽織頂戴いたし候二付、為歎夜分旅宿江
罷越

同十六日

大学 ○徳〔木下初太郎、義子、諱村弟〕太郎来ル、直ニ詰込 ○高橋〔弥四郎〕帰宅

同十七日

郊外詩会、私宅受持 ○飮肥藩守永半二・久留米藩加藤傳吾、
〔免番方祖徳〕荻角兵衛同道ニて来ル、加藤儀、池尻〔久留米藩士〕茂左衛門書簡持参、入塾之儀
精々頼越候二付、暫滞留致せ候筈

同十八日

出勤、隈部亀助出府、孟子ヲ讀遣ス

同十九日

講堂詩会

〔久留米藩主有馬駿頼〕
有馬中務大輔様御内山林典膳家来加藤傳吾と申者、為学問執行御
國江罷出、湊屋次右衛門江滞留仕、日々私宅江罷越稽古仕度段申
出候、就而ハ夜讀連刻之節等ハ止宿をも仕七度奉存候、此段宜敷
被成御達被下候様奉願候、以上 閏月 木下――

右之通、組脇受持赤石〔明石〕三郎七江相達

夜分ニ懸、清成方江罷越、水津同道也、但御拜殿被見候ニ付而清成
方今被申越候

同廿日

御題ニ付繁雜ニ付、暫居寮会休ム

閏四月廿一日

夜塾会

同廿二日

大学

同廿三日

加藤傳吾入塾、同人滞留之儀、前文之通相達置候處、外ニ見合致、
〔美助〕近藤方今引取達ニ相成度との事ニ付、前文其俣〔美助〕近藤方江相達候、尤
〔久留米藩士〕山村典膳家来ニ仕候儀ハ往来之名前より氣取違いたし、山村ハ寺社
奉行ニて、是今往来を出候、主人ハ有馬主膳ニ而有之候、達違仕候
得共、先其俣ニ差置候

同廿四日

詩經

同廿五日

御題二付、郊外詩文会休 ○綾部四郎助白川の別荘二案内二付、
水津同道罷越、柏木文右衛門・大場玄迪・綾部敬之允并家内等也

欲問鶴眠處、認来松掩門、水煙大江白、雨氣暮山昏、帰客呼涼
渡、残螢照夜村、十年遠遊夢、一覺對芳樽

同廿六日

木村・上田、湯治二付大学講休ミ、出勤、引懸ケ清田新兵衛着飲、
愛教四郎次を尋

同廿七日

出勤、御題、清浄紙上美濃壺束五帖之見込相達置、巨郭紅引出来ニ
而相渡り候、尤筆上書真書合三拾對、墨八挺相添、右紙ハ定規ハ無
之、其節々之見込ニ可有之、不足之節ハ追而達出候筈

同廿八日

出勤、夕方柏木文右衛門宅集會、參候様との事ニ付罷越、夜刻引取
之上、塾生論語會

同廿九日

永田論語會 ○御母様此間御持病之由申来居候間、今日早引帰
省、七ツ過着、御不快ハもはや宜敷候事、是月小尽

五月

五月朔日

在菊池、天氣宜敷、徳永至

同二日

雨天ニ付帰府不仕

同三日

暁前強雨、六ツ半比今止ム、同刻發、四ツ半比着、直ニ出勤

為学問御國江罷越

加藤傳吾儀、其元宅江日々罷越稽古仕、自然及深更候節ハ止宿
をも支不申様、学校方御奉行中江相達置候處、存寄無之候間、左
様可被相心得候、已上

五月二日

近藤英助

右相當之御請仕出

五月四日

御題浄汚紙渡し初ル、阿母御出府

同五日 小雨

北野隆右衛門分初甲之案内有之候得共、宇十郎迄遣し候、夜分
町野玄爾宅江飲、棊、
去ル二日大城太郎右衛門・松原傳右衛門下着、各為飲一昨日罷越候

同六日

講堂紀事、夜塾論、

水戸宰相様追々御年被長候二付、後見被仰付置候松平讃岐守様・
(松平頼重)

松平大宇頭様方被成御免、是迄之勞を被賞、御時服□宛被下置、宰相様御儀御國政向御家老とも江被成御談、列国之規範にも相成候様

可有之、中納言様事先年御隱居慎被仰付置候處、其後慎方宜敷有之候二付、慎被成御免、御國政向御携無之様被仰付置候處、猶思召之旨有之、事二寄御政事向被成御聞候様との儀、於御城當二月被仰出

同七日

出勤、夕永田論語
(堀兵衛)

同八日

言行録、夕出勤、夜左傳

同九日

出勤

同十日

詩、宅受持 ○先月閏四月十八日豊後府内之廻米船、於豆州沖異国船を見受、何方之船ハ廻米船と見へ、二艘右異船ニ被付、急ニ逃候二付、當船も逃候由、右乗候船頭嵯峨関江着、相咄候由

同十一日

漢書、出勤

同十二日

出勤、夜左傳、西村
(順次郎)

同十三日

出勤、去月十七日夕霖雨、晴間少ク、十二日十三日等強雨、白河壱丈六尺、緑河丈八尺、球摩川丈九尺之出水、取沙汰仕候

同十四日

詩經講堂、夜塾会

五月十五日

休日 ○安井仲平江之返書、塩谷甲蔵江之同様去ル十三日ニ仕出候、
(息野)甲蔵前ニ遣置候送序、尚改候而別写差越候二付、前紙返可申處、急
(塩谷)

ニ見出不申候、游昆氏莊記・野水縦横亭日曆二冊ハ手元ニ差置

戲贈鹽谷甲蔵 芳蹤誰繼延洋船、果見神龍躍九淵、玉樹遙知兼

回歇、鯨魚又憶蹴波顛、步虚辜負雲中靈、需首擊開水野天、水野

天公休泄々、例従杞國落風痕 外ニ野水亭日曆ニ評語一条并書シ

テコレヲ贈ル

葛□隱居招候二付、青稻軒詩社ニ赴ク

同十六日

出勤

同十七日

文會、宅受持

同十八日

出勤、夜左傳

同十九日

出勤、講堂詩會

同廿日

出勤、先月十七日夕雨、間々晴日あれども、霖氣未霽、時々出水、
例年二異なり

同廿一日

出勤、史、夜塾中会

同廿二日

出勤、早引、家内臨産、暮比村田を迎

同廿三日

暁八ツ半比女子出生、母子共々無異儀、家内儀未夕縁組相達置不申
候二付、出生達難致、病中にて今日夕引入申候。○木下初太郎・
〔前関子水惣庄屋〕
三村傳之助至

同廿四日

引入、雨、二三日晴候處、又々雨天二相成

○水戸家江被 仰渡候書付写

〔二月比二も有之、故(老中阿部正弘)〕
去ル十三日阿部伊勢守様御宅江水戸御家老御呼出、御渡御書附

去ル辰年中納言殿御隠居御慎之儀被 仰出、宰相殿御家督被 仰

出候節、未夕御若年之事二付御家政向之儀、松平讃岐守・松平大

学頭・松平播摩守家老被 申合可取計旨被 仰出候處、宰相殿

追々御生長被成御坐候二付、各三人共二御免相成候、依之以来御

家政向之儀萬端御誠実二弥以被用御心、国持始、諸大名之可為模

範様諸事格別御行届可被成旨被 仰出候、右之段水戸殿・中納言

殿江可申上候

別紙

〔徳川斉昭〕
中納言殿御事、去ル辰年十一月中格別御慎深く被成御坐候付、御

慎之儀御宥免被 仰出候、其節御政事向之儀ハ御携無之様御沙汰

之趣、松平讃岐守・松平大学頭・松平播磨守江申達置候處、思

召之旨も被為在候間、以来不及其儀段可申上旨

御沙汰二候、依之向後御家政向之儀御家老衆と諸事被尽御評議候

儀ハ申迄も無之候得共、品二寄中納言殿も御相談被成、御一藩不

和等之儀聊も無之様、萬端格別御心遣被成、弥以 上之御安心被

遊候様御處置可被成旨、分而申達候様二との

御沙汰二候、右之段水戸殿(徳川慶篤)・中納言殿江可申上候

時服十宛 松平讃岐守(頼地)・松平大学頭(頼武)・松平播摩守(頼忠)

右水戸殿御家政向之儀、是迄骨折候ニ付被下置候旨、於御黒書院(徳川慶篤)

溜御老中座備前守申渡牧野忠雅

同廿五日 雨

同廿六日 雨

(英助)近藤先生御用、御足高之内百石地免ニ被直下、合式百石田禄也

同廿七日 雨、夕晴

同廿八日 晴

同廿九日 晴

女兒生始七日、無異状、(輝村の母のこと)萱堂名ヲ酉と賜候、今日々数七日、病

中ニて引入

御奉公之覚

私儀、御次二被 召加置、直嘉永元年六月朔日同廿九日迄白金

詰被仰付置、同七月朔日江戸表被差立、同晦日御国許江着、御花

畑御寄合之節々罷出居候處、同九月廿四日数年出精相勤候ニ付、

御紋附御上下一具、白銀三枚被下置、御足之内式人扶持ハ其俣ニ

被下置、御留守居御中小姓被 仰付旨、於御花畑被 仰渡、十月

三日講堂并居寮江日々罷出、詩文之世話仕、会讀をも誘候様被

仰付、當嘉永二年五月卅日迄當前之御奉公相勤候内、病中ニ而十

四日、為老母見舞在郷江五日罷越、都合日数廿一日不参仕候

一、私儀、詩文之世話被仰付置候間、為御心附每歳銀五枚宛学校御

附銀之内分被下置旨、去十二月廿三日教授局分達ニ相成申候

一、私儀、於江戸御藏板出来之節御用懸被 仰付置、其後取計筋有

之、足利学校江被差越、内輪厚心配仕候趣ニ而御書物沓部并白銀

三枚被下置旨、當二月十二日御達ニ相成申候

一、私儀、講堂并居寮江日々罷出、詩文之世話、会讀をも誘候ニ

付、為御心附每歳銀五枚宛被下置旨、當三月十八日御達ニ相成申

候

一、私儀、御切米拾石三人扶持并式人扶持之御足被下置候

一、私儀、當酉年四十五歳ニ相成申候

右之通御坐候、以上

嘉永二年西六月

木下宇太郎 花押

(留守居中小姓觸頭)堀七郎兵衛殿

切延堅紙折懸

同晦日

(英助)出勤、近藤翁飲、入暑

六月朔日

(嘉永二年)晴

休日

二日 晴

同日 同
詩会、宅受持

三日 晴

史

同十一日 同

漢書、(十郎兵衛)早川・蒲池・(門喜)小山氏・(雀之充)渡部老人同伴、鳴岩ニ遊ブ

四日 同

中庸、塾論

同十二日 同

五日 同

詩會、宅受持

同十三日 同
井戸御手入未相濟、尚來ル十七日迄居寮引拂

六日 同

大学、紀事会

同十四日 同
休日、(韓村遺稿拾遺下所收)醉翁亭記相認、(玄應)町野ニ托し詩社ニ贈ル

七日 同

暇日、河尻大町ニ釣出浮

同十五日 同
右同

六月八日 晴

学校御臺所井戸御手入ニ付居寮引拂、來ル十二日迄

同十六日
出勤、晚近郊雷雨

同九日 同

御題詩文出来、袋入ニシテ(五郎助)栃原同道、今日教授局江差出

同十七日
居寮引拂内ニ付文会休、北郊雷雨

同十八日

出勤、夜左傳、御母様菊池江御帰、平山貞五郎御同伴、源左衛門御
供、暁七ツ御打立、晩雨

同十九日

講堂詩会、夕雨

同廿日

漢書、史、雨

同廿一日

漢書、史、塾論語、雨

同廿二日

大学、左傳、晩雨

同廿三日

言行録、史、雨

同廿四日

夜塾論語、雨

同廿五日 雨

生女宮参りいたす、名ヲつると授カリ候

同廿六日

大学

同廿七日

漢書、(次右衛門)国友入湯二付、史讀休

同廿八日

言行録、夕中庸、夜塾論語

同廿九日

永田支(三郎兵衛)朝会なし、是月小尽、来月二日亡先妻三回忌二付、
所々配物いたす

七月朔日(嘉永二年)

高橋・水津・町野・北野等相招佛事取行、尤寺二頼越候事、立田山
石碑、島崎石工江相頼、今日建ル、徳太郎罷越(頼村弟)

七月二日

薮ノ内、鋤身先向へ家内招キ茶ヲ進ム、夕方墓所見繕、朝夕会途支
へ

三日
言行録

四日
中庸、詩經会休、夜塾論

五日
郊外詩會、(五郎助)榎原受持、(吾郎)会后片山同道、(八十郎)清成方江参り、夜分引取

六日
大学、講堂紀事会、夜塾論、(韓村也)徳太郎菊池之様罷越

七日
稲津氏南國分之別荘二案内、(嘉善)中村・(又右衛門)柏木・(五郎助)榎原・(徳太郎)水津等也、主人
小山門喜方同伴

八日
(中村嘉善嫡男)中村嘉一郎怪我引入二付、言行録暫置置、出勤

九日
出懸、(久兵衛)稲津方江参、一昨日之禮相述

十日

郊外詩會、(五郎助)榎原宅受持、早引

十一日
夕方八家

十二日

大学、史・左傳休讀、(孫之丞)辛川外出、(彌之助)真野引入中也 ○(若殿・韶形附)清田新兵衛案内
二付、(兼内)加々山・(十部兵衛)早川等一同罷越 ○立田山、謙次郎石碑書シ、仙助
ヲ遣ス

十三日
出勤

十四日
早朝より菊池江罷越、赤星二立奇、四ツ過舊宅江着、夕雨、薄暮御
墓参り

十五日
朝御墓参、昼比より高謙・(高野謙太)小太郎同道、(韓村也)松囃子見物、高野瀬江立
寄、(孫三次)囃子相濟候後、(孫三次)城野江罷越、通物見物

十六日
暁河原才右衛門江暫睡、起来□碁、夕方引取候處、御母様御墓参

行 二付御供、尚(弥三次)城野・西等江罷越、是夜城野止宿、弥(城野)三次明朝夕旅

高橋(弥平)大学 ○澤村宮門御穿鑿頭御免二相成

十七日

弥(城野)三次旅行いたす、午前北原之様参り御墓参、昼後舊里江引取、夕七ツ過より打立帰府、四ツ比着

史

同廿三日

十八日

出勤 ○田中(医師)元勝去ル十三日果申候由、子元翼より為知来ル、人間一博物君子ヲ失フ

火術二付、会連少ク候二付、詩經会休 ○子供連、河邊江火術見物

同廿五日

十九日

風邪多ニ付中庸会休、夜左傳同様 ○草野平藏帰省中疫邪ニて、十三日夕打臥、重キ様子ニ付、十八日朝辰藏遣、父専(請役人役)次頼(玄應)ニ付町野江相談仕、日々見舞候

大学、平藏(草野)下解相應、脈甘ク、食事少々有之

同廿六日

七月廿日

無事

漢書、夜火術

同廿七日

同廿八日

中庸、阿蘇居住津崎五三郎、本嶋四郎書状持参、求入門、江口方江逗留可仕筈ニ申問候

同廿一日

無事、塾中風邪多ニ付会休

同廿九日

同廿二日

講堂御作事ニ付、今日より明日迄休学

同晦日
永田論語會(三郎兵衛)

同八日
夜左傳

八月朔(嘉永二年)

同九日

高橋・山内・岡崎・片岡同船、石塘口迄罷出(弥平)
(忠左衛門)

漢書

同二日

同十日

夜左傳

郊外詩會、栃原宅(五郎助)

同三日

八月十一日

漢書

同四日

同十二日

中庸、詩經、夜論語

大学、左傳

同五日

詩會、櫛原受持(五郎助)

同十三日

史、去ル二日ヨリ國友定雄作文打立、題ヲ請候ニ付、左之通

同六日

木村次郎太郎・田中・上田忠左衛門大学會、今日相濟 ○夜論語、

講堂紀事

妖由人興論

論狐蠱

上見盾將軍書
堯以天下讓許由辨

菁莪齋日録序

記壺川夜游

書鎖國論後

同七日

漢書

右□日迄ニ結構相濟候

書武鑑後

同十四日
詩經、内論語

同廿一日
史、内論語

同十五日
〔辨材子〕
〔高橋弥四郎宅〕
宇十郎、藪ノ内江頼、随兵見物ニ遣ス
○〔南園手水堂住屋〕
木下初太郎老母、伊倉妹
おなち随兵見物罷越

同廿二日
大学、夜左傳会不揃

同十六日
〔論語〕
夕論

同廿三日
〔事頭〕
夜大城太郎右衛門同道、入江傳右衛門方江罷越、屠鼈候、大重八百二十目

同十七日
〔五郎宅〕
〔野津原、龜崎郡代〕
文会栃原宅受持
○夕方宇野市郎右衛門宅江見招、山口先生・蒲池等

同廿四日
講堂御作事ニ付、今日より廿七日迄休学、右ニ付明廿五日文詩会、来ル十九日江延引、〔久留米藩高臣〕
加藤傳吾帰省
○河原能見物ニ罷越、座元仙助
〔演目名〕
望月殊ニ出来候、夜内論語
○塩谷甲蔵六月廿二日書詩等至、〔久留米藩主〕
岡永嘉右衛門事アリ、〔加藤〕
傳吾帰省、字ヲ乞候ニ付、装行勿装薄、飲水

同十八日
腹状不宣ニ付、中庸会断、引取、夜左傳会不揃

要飲清、松風關外眺、霜露滿帰程、書遣し候

同十九日
漢書
○講堂詩会例之通

同廿五日
〔雅治〕
在宿、阿蘇大宮司殿、大学ニ辨批閱之儀被頼置候ニ付、考讀

同廿日
史

同廿六日
〔辨材子〕
家内・宇十郎をも召連成道寺参詣、寺中偶澤村氏墓参ニ付、後之山
〔又、又〕
二入、栗ヲ捨テ、帰路鳴巖之様立回、同所ニて国武寛之允等ニ逢

同廿七日

昨廿六日より近思録講始、〔次郎太郎 忠左衛門〕木村・上田・田中等頼二因而也、手元逗留生も出席仕候事、今日出勤

同廿八日

中庸会ニ候へとも、明日呉淞半江樓詩文会ニ付、課題添削有之休会、夜塾中会業

同廿九日

詩文会呉淞園、〔英助〕近藤先生出席 ○〔仙吾 賴子〕河部駿太郎家内病死、今日葬送

〔重水 庄〕九月

朔日

〔韓村子〕宇十郎召連、鶴羽田村江栗拾二罷越、竹田津所江立寄、〔宗四郎〕高橋弥同道

二日

去ル九日、〔若殿近習〕田代雄次郎分書状至、去ル五月五日、御老中分三奉行其外江夷賊御打拂緩急之御咨訪書一通写来、此日朝大学、西左傳

三日

河原能見物、〔熊太郎〕水津・〔久太郎〕村上同道

四日

中庸・詩經、加々山権内訓導本役被 仰付、夕方罷越

五日

詩会、宅受持

六日

講堂紀事會、近思録

七日

漢書

八日

〔韓村弟〕徳太郎帰省

九日

佳節、家内召連、高橋河口江出浮

十日

詩会、手前受持

十一日

〔長門〕監物殿調練有之、〔韓村子〕宇十郎召連見習二罷越、〔彦次郎〕上村同道

十二日
 大学、左傳

九月十三日

作書、安井仲平・橋口彦助・清田新兵衛・橋谷市之助・遠山三右衛門・桑嶋貞之助・門岡忠藏・名和桂之助・田代雄次郎

○嘉永二年五月五日於新部屋、伊勢守殿・備前守殿、左之面々江御直渡之御書附写

初席

脇坂淡路守(寺社奉行脇坂安宅)・本多中務少輔(寺社奉行本多忠氏)・土屋采女正(寺社奉行土屋寅忠)・松平紀伊守(寺社奉行松平信勝)

太田撰津守(寺社奉行見習太田實功)

二席

遠山左衛門尉(町奉行遠山景元)・牧野駿河守(町奉行坂成徳)・久須美佐渡守(備定奉行須美祐明)・池田播磨守(大目付池田長傳)・遠山平左衛門(目付遠山則訓)・石谷鉄之助(目付石谷徳磨)

三席

三宅市左衛門(目付三宅康濟)・池田筑後守(浦奉行池田宗力)・遠山平左衛門(大目付遠山盛房)・石谷鉄之助(備定奉行石川政守)

四席

松平河内守(備定奉行松平近忠)・本多隼之助(目付本多安英)・戸田能登守(備定奉行戸田氏宗)・深谷遠江守(備定奉行深谷盛房)・石川土佐守(目付石川安鎮)

五席

佐々木修輔(備定奉行佐々木)・羽田龍助(備定奉行羽田)・井戸対馬守(長崎奉行井戸忠忍)・浅野中務少輔(浦奉行浅野長雄)

近来異国船折々致渡来候處、昨今年ハ西北海・對州・南部・津輕都而奥羽之間、松前邊夥敷通航いたし、折々上陸等もいたし候へども、為差儀も不申出、薪水食料等乞候迄にて出帆いたし候事二候へども、其度々沿海之諸家ニ於而ハ人数等差出、此表江御届等雜費も不少趣ニ相聞へ、比年如斯ニ而者諸家勝手向江も相響可及困窮候、左候迎守衛之儀等閑とハ難相成事二候へハ、追々難渋ニ相成候ハ、自然ニ賦斂も重ク相成候ハ、不容易事ニ候處、今年

ハ長崎表江阿墨利加船渡来、松前今送ニ相成候漂流異国人共受取帰帆候得共、定而右御禮杯と唱、猶又渡来可致も難計、又此程浦賀表江映咭利船渡来いたし、右ハ外ニ趣意も無之、此表江見廻リニ罷越候趣、和語を以申出、其外申出候口上容躰等輕蔑侮慢之情態も有之由、其上薪水相与候得共、請取出帆之上、尚又下田表江罷越、上陸測量いたし候哉ニも相聞、大島江ハ西墨利加船ニ候哉罷越、是又上陸いたし候由、夫而已ならず沖合ニ類船も相見へ候由、打重ね沿海所々乗りあるき、風説ニハ候得共イキリス船中ニハ日本人・唐人杯も乘組居候哉ニ相聞、旁以當時之成行にて其俣差置候ハ、弥蔑視いたし驕恣傲之所業ニも及ふべきや、左候へハ御国躰ニも拘り候儀と、何分其俣打捨可置筋ニ無之候間、文政度之如ク、猶又打拂之儀被 仰出可然と存候、乍去先年打拂之儀相止、格別 御仁徳之御所置可有之旨被 仰渡、西洋諸国江も演達有之事ニ候へハ、唯今彼之国々より廉立候格別之不義非法も無之候處、俄ニ御改革有之候も却而争端ヲ披れ候哉ニも可相成、又夫ニ付而ハ第一先此方沿海之守備不相整候而ハ、萬一此後異賊艦を以渡来候節ハ攻撃防禦之術行届申間敷事ニ付、先此儀ハ諸家江も相達し、守衛整候上にて彼之方之不義非法を押へ、弥打拂之儀被 仰出歟、乍去機会時勢杯とて此俣差置候ハ、弥輕蔑侮慢超過いたし、御国威ニも拘り、且諸家之難渋沿海邊而已ならず、御国中之疲弊衰耗ニも至り候時ハ、実ニ以不容易事にて深痛心いたし候事ニ付、此後御所置之計畫、利害之当否、後弊等無之、永久御安心可成様、各存寄を不殘、此度之儀ハ銘々より各通を以可

被申聞候、尤聊忌諱嫌疑之顧念無之、存寄一杯之處可申聞候、唯

今之時勢にてハ先達而も申達候通、一月後候へハ一月丈ケ、二月

後候へハ二月丈ケ之御油断にて、萬一其内又候渡來等度々ニ及候

へハ、其丈ケ之御損ニ相成、御国威ニも拘り諸家難法も打重り、

萬一夷賊共分不法ニも及候時ハ差誤有之間敷と難申、左候へハ亦

御失策とも可相成事ニ付、あつく勘弁之上早々可被申聞候、右ハ

異境此節之時勢ニおゐて御国計大切之儀と存候へハ、実ニ寤寐反

側ニ可及候程にて、是を氣運ニ托し時勢ニ委ね、括然拱手して乍

居御国地之衰弊ニも可相成を慮外ニ置候程にてハ恐入奉存候、於

右も同様之意ニ可有之間、篤ト勘弁考究之上、忌諱不敬ニ涉り候

事たりとも聊無遠慮了簡之趣可被申聞候事

右田代雄次郎(若殿近習)分銀三郎江遣候写書也

九月十四日

御寺参拜、講堂詩經会断、早引、九ツ時分より打立、菊池江罷越、

暮前着

同十五日

御母様・しづ、中町ため御連南方江御出、小太郎(御付也)ハ前日より高瀬江

罷越候

同十六日

昼比分打立南方之様罷越、ひさ縁所紫藤格次方江御母様御逗留ニ付

一宿、夜吉川穆雪、□□十左衛門江案内、風邪氣味ニ有之

同十七日

穆雪宅にて添嶋甚次郎・中原恒助入湯帰りニ立寄、枯木迄送り、赤

塚惣平江罷越、夜飲、南方江引取

同十八日

御母様御水沍之氣味有之、穆雪ニ為見、格別之御儀ニ無御坐、昼比迄見合、熊本江引取、十六日・十七日・十八日、暇日ニ相成候事

留守中ニ田代雄次郎(若殿近習)・山井璞助(西条藩御者)・猪股才八状至、才八よりハ越前御

藩中三寺三作と申者侯命ヲ受西国筋遊歴いたし、大坂分を替金拙者

名當ニ仕出候由、尤彼方預役分才八親元江頼候故、右之次第且御国

ニ罷越候ハ、世話仕呉候様申遣候

同十九日

講堂詩会

同廿日

史、塾論

同廿一日

同

同廿二日

(五郎助) 榎原病氣尋候處、疫邪ニ而痰飲差添難渋、大学、左傳

同廿三日

同廿四日

詩經、夜塾論語、(五郎助) 榎原容體、夜分指重ル

同廿五日

去ル十七日文会延居候ニ付、今日於私宅相勤、例月詩文会ハ延引之事

同廿六日

大学

同廿七日

(左助) 寺尾論語、今朝夕風邪ニ付引入、悪風雨凄、寒甚

同廿八日

風邪ニ付引入、悪風雨、寒氣強、(五郎助) 榎原訓導二三日見直シ、邪氣ハ過半除居候處、今暮比夕様子悪ク相成、四ツ半比死去

同廿九日

(五郎助) 榎原死去之段、曉八ツ時申来候而、(熊太郎) 水津申談、同人風邪身分よりも

強有之候ニ付、自身而已打立、本庄江罷越、諸事世話、昼後風邪不
宜候ニ付引取、薬用、今日表向ハ風邪引入

同晦日

昨日より時雨ニ相成、引入中ニ候へども、内分本庄江罷越、(五郎助) 榎原先
生夕八ツ半時出棺、於萬町常安寺葬礼相営、墓所者立田御山内ニ受
取、日暮迄ニ相濟

(嘉永二年)
十月朔日

休日、(熊太郎) 水津同導本庄江罷越

同二日

月代出来不仕候ニ付、今日迄ハ病中達、和坂田豊・伊東大作・
(時習館会谈進・経堂) 大岩又左衛門来、内輪咄合有之

同三日

出動 ○(藏人・中老) 溝口殿・(子助用人) 沼田殿・(左衛門・留守原大頭) 坂崎殿・(舟右衛門用人) 堀殿・(中着座) 藪殿・(天衛・比着座) 西山殿・
(後長衛・普頭) 松山殿・(助之允・免座) 尾藤殿・(有吉・家老) 市郎兵衛殿江保工返礼延引ニ付、(英助) 惣意之者を以挨拶ニ罷越、(蘭梅) 近藤翁ニも罷越 ○(蘭梅) 高山謙太出府、(辨持弟) 小太郎状至

同四日

伊東大作参候ニ付学校早引、本庄ニ罷越

同五日
詩會、宅受持

同六日
近思録、講堂紀事、論語

同七日
橿原七右衛門出府、水津宅二而五郎助跡之世話等咄合

同八日
夜左傳

十月九日
漢書、左傳、竹内四郎助・徳岡勇之允入学、但右八柝原江相詰
居候處病死二付、遠方游学之者先片付世話指急候間、稲津方〔久兵衛〕水津
を以強而申來、塾中江申談、先稲津方〔久兵衛〕日通仕候

同十日
詩會、宅受持

同十一日

同十二日

居寮生誘二付野出、嶽村山江兎狩二罷越、無獲、夜分罷歸候處、
堀七郎兵衛方〔留守居中小姓御座〕手紙參り居、左之通

日付
——殿
堀某

右二付夜分早速罷出、申渡左之通
貴殿儀、時習館訓導助勤當分被
仰付旨二候、此段申渡候、以上

日付
右二付、稲津・近藤・市郎兵衛殿・柏木・加々山・真野・佐田・
山口・中村・大城各二者回勤

同十三日
築瀨・下津殿・平野殿・監物殿・溝口殿・頼母殿、朝之内廻勤、
講釈前出校、居寮江吹聴、句讀師・習書師同様也、今日講釈中村相
勤、講後教授局・御目附間、築瀨同道

同十四日
講堂取計向、當番等之操合等承知、書生受持番操、詩文受持等、橿
原之通引受候様、訓導中〔長崎御座代〕申聞二相成

塾中押合逗留二罷越候、夜塾會論語、徳太郎菊池江參ル
○竹内四郎助・徳岡勇之允

同十五日

山口先生御使番列被仰付、時習館助教被 仰付之候〔九郎〕

一、松平越前守様御家中三寺三作為遊歴罷下、拙宅江參ル、水津同〔春嶽福井藩主〕〔尋学忠通清教長〕〔熊太郎〕
席暫相見いたし候ハ昨日之事也

同十六日

近思録、枳原保次申立之書附執筆

同十七日

宅文會、後妻縁組願書未相達不申候二付、中松弥助江相頼左之通、〔勘定役根取力〕

二通遣ス

半紙折懸

木下宇太郎儀、吉村喜兵衛娘〔中小姓二番組力〕と後書縁組仕せ度奉存候、七郎兵衛殿御存寄無之候ハ、願書相達申度奉存候、此段奉伺候、以上

十月

武田権作殿

明石三郎七殿〔勘定役當分力〕

中松弥助〔勘定所根取力〕

同

木下宇太郎儀、吉村喜兵衛娘と縁組仕せ度奉願候、以上

十月

堀七郎兵衛殿〔留守居中小姓触頭〕

中松弥助〔勘定所根取力〕

右案文明石分相渡之通也

十月十八日

講席柏木、小学〔文右衛門〕

同十九日

講堂詩会

同廿日

同廿一日

當番

同廿二日

同廿三日

言行録、井口・安恵・寺尾・林・山代・牧・中村敬列左傳會讀、於講堂相始、尤右之面々枳原受持引繼、自分受持二相成候事〔五郎助〕

同廿四日

今日より寄暇日を以菊池江罷越候、尤家内不残召連、留守之儀ハ〔台所根取力〕片岡忠右衛門申談候趣、頭宅ニも相達、塾生加藤・竹田津江諸事相〔伝吉〕〔辰蔵〕托置候事、今日寒甚、村田江立寄、暮比今村江着

同廿五日

村社

同廿六日

暇日、六日

同四日

昼話、夜論語

同廿七日

小太郎同道、安達周恵江罷越

同五日

宅詩會

同廿八日

安達周恵・徳永理十郎等、小太郎江至

同六日

昼話、朝近思録、講堂紀事、夜塾論語

同廿九日

家内召連婦府、暮比着、組縁願之儀〔勘定所根取也〕中松弥助、相達置候處、可為勝
手次第段、御付紙二相成

同七日

漢書、昼話

同晦日

於法念寺詩文會

同八日

始講小学、善行首呂栄公一章、夜左傳

十一月朔日〔嘉永二年〕

同九日

漢書、昼話、左氏、夜左氏

休

同二日

昼話、夜左傳

同十日

宅詩會

同三日

當番、聴講、講堂左傳

同十一日

木葉居住徳永熊太二男徳永雄次入門、漢書、昼話、詩經

同十二日

大学、當番、左氏、〔親兵衛〕築瀬宅集會

廿日

夕番

同十三日

言行録、聴講、夕番、夜雪

廿一日

當番、宇野列宅論語會始

十四日

塾中論語

廿二日

大学、石光列講堂論語會始、夜左傳

十五日

休日、高橋員熊紐解、〔熊太郎〕水津娘同様、両所江罷越

廿三日

講堂、講十室之邑章、左氏、夕方櫛原保次江罷越

十六日

近思録、當番、詩經、夜分柏木同道、〔文行衛門〕水津江罷越、井上江も罷越

廿四日

當番

十七日

宅文集文會

十一月廿五日

十八日

言行録、左氏、栃原江罷越、七右衛門同坐、嘶合有之

たし候様

今日、〔彌村子〕宇十郎安痘・祝つる出生・手前当分役被仰付候御祝取束、

十九日

講堂詩會、大河原左傳

高橋・町野・大城・北野・水津等相招

同廿六日

近思録、当番、講堂左氏会引懸、栃原保次江為欲罷越

同廿七日

夕番、久保田権十郎依招罷越

同廿八日

並番、宇野列孟子会、塾中論語会

同廿九日

夕番

十二月(嘉永二年)

朔日

寒見舞廻勤

二日

大学、並番、石光列論語会、西村列夜左氏

三日

言行録、当番、左氏、夕方寒見舞廻勤

四日

並番、塾会

五日

(細川 護国 友男 九)
凍姫様御婚姻首尾能被為濟候二付、御家老・御中老廻勤 ○詩会、
宅受持 ○夕方栃原方二付内談有之、水津同道、坂田豊江罷越

六日

近思録、講堂文会、塾論

七日

並番、石光列論語会、夜上田列論語会

八日

言行録、夕番、夜西左氏

九日

漢書、並番、講堂左氏、桑木列孟子会始、大河原左氏

十日

宅詩文会、但年末八十七日文会打混、吸物とも拵候付、例年当日二
致候事

十一日

並番、詩經、宅孟子

十二日
並番、大学、左傳、宅左傳

同十九日
講堂年末考課調

十三日
夕番、言行録

同廿日
右同断

十二月十四日
並番、宅平川列啓蒙、朝御寺参拝

同廿一日
講堂今日夕休ミ、朝五ツ比夕小者重右衛門召連菊池江罷越、七ツ過

十五日
休日

同廿二日
菊池滞留

同十六日
夕番、朝近思録、詩經

同廿三日
歸府

同十七日
文会取越置候二付、並番

同廿四日
出勤、考課等教授局江差出

同十八日
当番、左傳

当暮渡り方稜々
一、式石九斗 暮渡 一、半高百七匁五歩 銀三枚 当役御役料丈御心付銀本

本役中并番世話役打寄、請持山口先生(仁九郎)も後刻二案内申候事、当席上
村列詩文御賞美申立之目安申談

行之内当暮半高渡り
一、七俵 当勤御付本行之内半高三俵半渡り 一、白銀三枚 当勤別段御心付

一、白銀七拾五匁銀式歩式厘 九月迄銀壹枚、十月分銀四枚、各月割二而被渡

下、詩文館外二而之世話御心付

右稜々委敷訊ハ履歷冊ニ記置候事

外二銀五枚、当三月講堂居寮江日々罷出詩文世話仕候ニ付而

被渡下段、御達ニ相成候ハ其俣被下候段、門岡員右衛門機密

間迄間合受取呉候、尤当暮半高相渡候

同廿五日

詩文筆稿點削、勝手仕舞等

十二月廿六日

同

同月廿七日

同

同月廿八日

同

同月廿九日

同

同月大晦日

木下宇太郎儀、今度同役助勤當分被 仰付候ニ付而者、是迄欄原五

郎助私塾江相詰居候諸生者勿論、右外ニも塾詰ニ而研精仕度心懸候

者多ク御座候處、宇太郎方敷込六枚之小屋江取詰置候へ共、間狭ニ

而當時居懸之内ニ告、両三人ハ本宅江寐起致セ、漸ク押移候位ニ

付、外二新塾取建不申候而者難叶候、乍然右塾取建御手當、宇太郎

自力ニ而者急ニ調兼、致當惑候様子ニ御座候、然処卑賤今御取立ニ

而学校江被召仕候輩者、家建料奉願候へ者被為拜領候儀、以前分

之御見合ニ而、既ニ欄原五郎助迄者拜領仕来申候、宇太郎儀者是迄之

處自力を以取賄、御難題□不奉願由ニ御座候間、右家建を此節宇太

郎江被為拜領候儀者被為叶間敷哉、左候ハ、御蔭を以相應之塾取

建、前文心懸候書生を相誘候儀、差支不申候様罷成可申候、御出方

筋之儀、御時節柄奉願候者恐多奉存候へ共、学校御倡之訊ニ相預、

且右家建料不奉願稜も有之、別段之儀と奉存候間、於私共重畳奉願

候、此段御内意仕候条、可然様被成御達可被下候、以上

十二月

訓導中

兩教當

木下宇太郎家建料被渡下候様、訓導中分之願書御達被置候、委細書

面之通ニ付、右家建料錢壹貫五百目被渡下候条、此段可有御通達

候、以上

御勘定方御奉行中

十二月晦日

近藤英助殿
山口仁九郎殿

嘉永三寅戌正月朔旦

同五日
在宿

同六日

下人菊池江遣ス ○夕方今入江傳右衛門方江大城・山内同道罷越、
碁話

同七日

在宿、下人婦ル、小太郎出府、夜高山謙太至

同八日

同

同九日

同、夜、福島龜之允・柴田純太郎・江藤七弥太・城俊三郎・謙太至

同十日

同、木下初太郎至 ○稲津氏案内二付国分別荘二罷越、佐田・
上野・真野諸氏其外、石井・早川・水津・柏木・畫師相谷同遊
高瀬季久人・永坂鮮太郎・山田哲之助江両教令之御達状、山口先生
分被相渡候

同十一日

滞留生加藤・草野・竹内・竹田津・徳岡・成田、鏡開 ○三村傳之
助・福田春藏至 ○高瀬季久人江御達状通達、外兩人江ハ其趣ハ郵
便江相頼仕出置候

同十二日

宇十郎召連、塾生共々射初見物

同十三日

関綱彦・河野常八・同権藏入門、開講子華使於齊一
章、御土器頂戴例之通、夜分飯田宅案内

同十四日

高宮貞喜入塾、御寺參拜、夜分上村・福島一同大城家江參
ル、兩人此方二止宿

同十五日

出勤、栃原助之進入門、夜岡松文泰案内

同十六日

三公子講堂江御入、御望ニ而此方江講釈被 仰付、孟子開卷第二章
説上申候

同十七日

宅文會、山内喜代清入門〔阿蘇黒川一領一正山内直彦弟〕

同十八日

講小学、高橋方年杯、夜左氏傳

同十九日

出勤、兩教出勤無之二付、講堂詩会休 ○丑三郎〔備材弟〕・徳太郎〔備材弟〕出府

同廿日

佐藤千代熊入門、出勤 ○今日、塾地堅メ礎居へ普請打立、丑三郎〔備材弟〕郎帰ル〔阿蘇地主佐藤惣左衛門孫〕

同廿一日

漢書、当番、牧列小学讀始、字論、塾會

同廿二日

大学、石論、富田熊男入門〔木栗子〕

同廿三日

言行録、左傳、永田論語、塾取建〔三郎兵衛〕

同廿四日

寺論、詩經、孟子、塾会、塾葺仕舞

同廿五日

富田熊男講堂出席〔備材門人〕 ○阿蘇氏使至、易述義返シ来ル、鶏卵添

同廿六日

夕番

同廿七日

昼詰

同廿八日

当番、宇野列孟子

同廿九日

夕番、下り夕稻津方江参り〔久兵衛〕 ○作事棟上、新寮ゆか、窓、北隅之雪
隠迄相濟

同晦日

暇日仕、菊池江罷越、七ツ半比着、上阡

二月朔〔嘉永三年〕

菊池滞留、正官寺邊迄罷越

同二日

帰宅

同三日

(時置頭調尋)
中村庄右衛門、阿蘇南郷御郡代當分被 仰付候

四日

出勤

五日

詩會

六日

出勤

七日

右同

八日

右同、稻津方江罷越、(公兵衛)
内藤宗民江も同断(医助)

九日

右同

同十日

詩會

同十一日

出勤、中村方江山口先生始案内罷越、(加善)
近藤先生(仁九郎)(美助)

同十二日

出勤

同十三日

夕番

同十四日

御寺参拝、出勤

同十五日

在宿

同十六日

出勤

同十七日

文会後(福内)加々山宅江集會、見分下調 ○村井次郎作、(郡代定役)訓導當分被 仰

付 ○加藤傳吾・竹内四郎助阿蘇令帰ル

同廿五日

同十八日

試業第四日

出勤

同廿六日

試業第五日

同十九日

出勤、詩会

同廿七日

試業休、塾生十七人杜鹿江出浮、手前・家内共二罷越

同廿日

出勤、明日今見分二付、夕番無之

同廿八日

試業第六日

二月廿一日

御家老衆見分、今日文科三拾一人

同廿九日

試業第七日

同廿二日

同詩科式拾三人、右兩日引除説經調二不携

三月
(嘉永三年)

朔日

同廿三日

説論語、季氏使閔子、為費宰章、試業第三日

試業第八日 ○草野平藏(前役人殿草野専次郎)江学資料式百五拾目、不表立被下置候趣
申聞、錢相渡候、尤枋原助之進も同様、加々山宅二而申聞候事(種内)

同廿四日

試業休

二日

試業第九日

三日
佳節、阿鶴〔韓村感〕ヒナ祝イ

四日

試業第十日

五日

試業第十一日

六日

試業第十二日

七日

試業第十三日

八日

試業休

九日

試業第十四日

十日

試業第十五日

十一日

砲術見分取扶二付、今日今試業休

十二日

休息

十三日

休息、兩日雨天

三月十四日

〔韓村七〕宇十郎召連、菊池江罷越、暮比着

同十五日

在郷、赤星二行

同十六日

同上、雨天

同十七日

同上、高野瀨江行

同十八日

同上、雨天

同十九日
宇十郎召連、帰府

暁八ツ前参詣、献粥、暁八ツ時施食、暁七ツ時半齋、暁六時相濟、五ツ過引取

同廿日

廿四日

参校、来ル廿五日より試業相始候筈ニ付、出席之諸生通達

今日炮術試業濟

同廿一日

廿五日

竹内四郎助、大婦

講堂試業第十六日

同廿二日

廿六日

泰海院様御法會、来月廿三日を當月御取越御執行被仰付候ニ付、左之通

同第十七日
廿六日

口上之覚

廿七日

来ル廿三日於妙解寺 様御三回忌御法事之節、乍恐御寺江相詰申度奉願候、此段宜敷被成御達可被下候、以上 三月

同第十八日
廿八日

木下宇太郎

御付紙 御用番江相達候處、本行願之通御寺詰被 仰付候条、詰方

同第十九日

之儀ハ御小姓頭被 承合候様可被有御達候、以上 三月

廿一日 堀七郎兵衛殿 御奉行中

〔二十九日条ナシ〕

右之通相濟、今日宿忌、晝四ツ時開靜、夜九ツ時御修行ニ付、五ツ過長上下ニ而罷出、九ツ過引取

卅日

廿三日

同第二十日

(嘉永三年)
四月朔日

同第二十一日

四月二日

試業第二十二日

同三日

同第二十三日

同四日

止

同五日

同第二十四日

同六日

同第二十五日

同七日

同第二十六日

同八日

同第二十七日

同九日

同第二十八日

同十日

同第三十日、当日迄之見込ニ御座候處、人数餘り、猶日延ニ相成

同十一日

同第三十一日

同十二日

同第三十二日

同十三日

同第三十三日

同十四日

同止

同十五日

同第三十四日

同十六日

同第三十五日

同十七日

同第三十六日、おつる種痘

同

同廿五日

同十八日

同第三十七日、試業濟、說經講義共々式百六拾一人、文科三十一人、詩二十五人

講堂總試相濟候後、訓導中・両世話役・蒙養師宇野・句讀師井口^(星助)等、福島仙寿打越之別業ニ出浮

四月廿六日

同十九日

講堂算学等見分二付、出勤不仕

夕番

同廿七日

同廿日

同、種痘三點生色

昼詰

同廿八日

同廿一日

同

當番

同廿九日

同廿二日

同、種痘起張、熱有之

夕番

五月朔日^(嘉永三年)

同廿三日

同

休

二日

同廿四日

昼詰

三日
昼詰、羽倉外〔簡堂〕記殿々書至、通鑑評改刻、南部墨并詩半好紙到来

郊外詩会

四日

十一日
昼詰、友成津内方江案内〔原保世世役〕

昼詰

十二日

同

五日

佳節、井上久之允〔小国久住郡代〕江罷越、大城・吉田同圍碁 ○竹内四郎助〔韓村門人〕分朱雪
馱等之注文物・菓子・毛氈等到来

十三日

夕番

六日

講堂文会

十四日

昼詰、早引、菊池江罷越

七日

昼詰

十五日

在菊池

八日

夕番

十六日

暇日にて夕方帰府、高宮玄静同道、雨

九日

昼詰

十七日

郊外文會

十日

十八日
講釈相勤

十九日

講堂詩会

五月廿日

夕番、綾部石武助列孝経会始、夕方中尾俊助案内罷越〔長岡監物家本也〕

同廿一日

當番、村中江罷越、田中元勝〔元医師、故実也〕碑銘之事申談有之

同廿二日

昼詰、宮崎定太郎〔元水戸藩郷字師〕書至、水戸人也

同廿三日

昼詰之處、村中助にて夕番

同廿四日

當番

同廿五日

昼詰

同廿六日

夕番

同廿七日

昼詰

同廿八日

當番

同廿九日

夕番、是月小盡

御奉公之覺 半紙封印

私儀御留守居御中小姓二被仰付、御切米拾石三人扶持并式人扶持之御足被下置、講堂居寮江日々罷出、詩文之世話役、会讀をも相誘候様被仰付、去嘉永二年六月朔日今同十月十二日迄日勤罷出候内、病中二而日数五日不參仕候

一、同年十月十二日時習館訓導助勤當分被 仰付、當嘉永三年五月廿九日迄日勤仕候内、為老母見舞在郷江罷越、日数一日不參仕候

一、當年四十六歳罷成申候

右之通御坐候、以上

嘉永三年

戌 六月

木下宇太郎 印 (花押)

稻津・佐田・真野〔久兵衛〕三殿當り〔源之助〕

右之外切延、紙折懸、觸頭江相達候方ハ例之通、尤祿席之
文言省キ申候事

六月朔日〔嘉永三年〕

同二日

昼詰

六月三日

講釋操出

同四日

並番

同五日

詩会宅受持、清成〔奉行〕八十郎方癘症ニ而今晩死去

同六日

講堂文会、毎日夜会讀ハ記不申、一部卒業之節扣可申筈

同七日

當番、葬清成氏〔八十郎〕

同八日

清成氏墓誌銘相認候ニ付暇日仕候、夕番〔權内〕加々山江頼越申候、四ツ
比迄ニ清書等相濟遣申候〔肥後先哲遺蹟 正編七四頁〕

同九日

講藝齋会遅刻いたし候間、其段相断候

同十日

詩会宅受持

同十一日

並番

同十二日

並番

同十三日

夕番

同十四日

並番

同十五日

宇十郎・逗留生召連、河尻大町村江釣鰈

同廿三日

講論語、(新巻)知者楽水一節

同十六日

夕番

同廿四日

當番

同十七日

宅受持、文会

同廿五日

聖武記・宋四家文集・明詩綜、御買上之申談仕候處、夫々相決候上、市郎(有志)兵衛殿江參、其段相答候處、聖武記ハ家蔵ニ被致度由ニ付

同十八日

當番

其通ニいたし、其段山口先生(九郎)・訓導中江相談被決申候事

同十九日

講堂詩会

同廿六日

夕番、四家文集壹両貳分・明詩綜壹両三分、御買上取計

同廿日

夕番、近藤翁(英助)奥方、老病ニて今晚死去

同廿七日

並番

同廿一日

當番

同廿八日

(細川左衛門) 太守様先月十八日江戸被遊

同廿二日

並番、葬近藤(英助)孺人

御立、今日九ツ比被遊 御着候事、辻御目見榎場西大手外

同廿九日

夕番

同晦日

昼詰

(嘉永三年)
七月朔日

(細川齊護)
君公時習館御入

同二日

昼詰

同三日

並、(郡兵衛英七)
木庭藤之助入學、同道

同四日

並

同五日

當月詩文会、(喜三郎)
片山宅受持ニ申談、今日相勤、出方致候事

同六日

並、(貞吾四男、韓村同人)
右田大四郎同道、菊池江罷越、夜四ツ比着

同七日

佳節、(伯娘)
墓參之後桑満先生見舞、(源次)
城野・(源作)
平山打廻り、新宅之様引取

同八日

暇日ニテ菊池逗留いたし候、暮前分打立帰府、夜五ツ過着

同九日

並

同十日

郊外詩会、(喜三郎)
片山宅受持、出方仕候

同十一日

並、昼八ツ比より強風、東分南江直し弥以相強り、暮比西ニ直し吹止、所々倒家拔木等有之、近十年之大風ニ有之候、宅屋根南棟吹取、中ノ間壁落、塾北江三寸計倒レ候事

同十二日

並、於西丸御城御簾中(細川家北正室一桑孝子)
様御逝去ニ付、今日今日数十日御便ニ相心得候様、来ル十六日迄繕作事相止候、依之例之通講堂も十六日迄相止候事

七月十三日

在宿

同十四日

妙解寺参拜、昼過白雨起り雷聲強、御府中所々落雷、電花有之候
中、(天龍寺)槇嶋賀太郎高麗門外寺門にて被撃即死

同十五日

泰勝寺参拜、久本寺・龍田山廻参仕候事、夕方白雨雷聲、昨日ハよはし

同十六日

白雨雷聲、弥穩二相成候

同十七日

(室三郎)片山宅文会出席、夕方白雨格別降来不申候

同十八日

當番、齋藤文之助・(領札後藤存七郎孫)後藤太郎彦入学、召連候 ○六月十四日比、久留米村山守太郎於御家老有馬飛驒前中老馬淵貢江及刃傷、二三ヶ所ノ手疵を付、其身即時自殺、野崎平八ハ御不審歟にて揚屋江被指置候由、(若殿近習)田代雄次郎より内書申来

同十九日

波、講堂詩会

此所毘紙有之二付

去酉二月ハ書齋江寄寓修行仕候事、一々筆記仕置不申二付

録置

西三月五日竹田津辰藏・西三月六日草野平藏・西三月木下徳太郎・同成田梶郎・西四月廿三日加藤傳吾・同十月十日竹内四郎助・同徳岡勇之允・同十一月十一日徳永雄次・同月都崎五三郎・戊正月十三日關綱彦・同河野常八・同河野権藏・同月十四日高宮貞喜・同十五日栃原助之進・同月十七日山内喜代清・同月廿日佐藤千代熊・二月十一日廣吉・二月十五日日本川道順・同十七日古閑藤作・同十八日石光敬助・同十九日伊東大作・同野中宗肅・同二十一日漆島作馬・同廿三日犬塚孫一郎・同二十六日右田大四郎・三月三日佃・同廿日百次郎・同廿日佐方万之助・同廿一日厩口為藏・四月三日萩谷雅次・戸原卯橋・同十六日日本川有祥・同廿三日藤井儀太郎・同廿九日園田作彦・五月七日大矢野格次・同廿日山隈助次郎・同廿一日浅田和三郎

合三拾七人 内、佐藤千代彦ハ未夕詰込不申、河野兄弟御屋にて引取候

七月廿日

夕番、(桑行所根取)水津熊太郎実母養方江引受居候而今日病死

同廿一日

當番、(永津)是夜熊太郎実母柩、夜八ツ比ハ木葉江掃葬

同廿二日

並、(中村英七孫)中村廣助入学

同廿三日

並、赤瀬謙之助〔勘定所切手番足懸〕入学、久留米事〔宮三郎〕二付片山内話有之候末、當人今飛脚立候事

同廿四日

當番、稻津〔久兵衛〕分職御物頭二轉役之事

同廿五日

例月郊外詩文会、正月已来見分等二て相止居候、今日一日亭二て被相催候事、教授局両先生・片山〔宮三郎〕・手前出席

同廿六日

夕番、風雨

同廿七日

並、仙臺入江長之進・石澤俊平〔竹窓〕兩人、齋藤順次添書二て此間長之進罷越、今日兩人參候得共居合不申候、夜分兩人至、入江有海防剩議

同廿八日

並、高橋弥四郎〔韓村安、春行屋根取〕 召二而御擬作百石地面二被直下候

同廿九日

夕番、入江長之進〔仙台藩士〕・石澤俊平〔仙台藩士〕宇土二赴候、塾生伊東〔大作〕・萩谷列寒〔雅次〕□見〔火カ〕物之為南游

八月朔日〔嘉永三年〕
灸治、三村傳之助〔鮫手水惣庄屋〕・渡部子八郎〔高森手水惣庄屋〕・犬塚伊之助〔野尻手水惣庄屋〕、追々二至

同二日

並

同三日

並

同四日

並、禮記會讀始

同五日

詩会當月宅受持

同六日

並

同七日

又々大風、東より北西二廻し強ル、屋上損所、先月十一日よりよし

同八日

夕番

同九日

講藝齋会、並

同十日

詩会、並

同十一日

並

八月十二日

此間雨天續キ、米價七十五匁

同十三日

夕番

同十四日

並、御寺参拜

同十五日

御祭礼

同十六日

夕番

同十七日

文會宅請持

同十八日

講堂江被為入、師員說經（讀民也）築瀨、諸生說經内生桑木十右衛門・平川
貞四郎・外生松原勘助、被遊 御聞候

同十九日

並、講堂詩会

同廿日

早引、故山江帰省

同廿一日

在故山

同廿二日

朝發帰宅、暮比着、暇日二日

同廿三日

並

同廿四日

當番

同廿五日

例月郊外詩文會、吳淞半江樓

同廿六日

夕番

同廿七日

並

同廿八日

入江長之進〔仙台藩士〕・石澤俊平〔仙台藩士〕薩摩〔仙台藩士〕至、入江海防策評遣し候、出立、此日
丑三郎出府、夜中同道河原旅宿江罷越、福島龜之允〔河原半水惣正〕・柴田二對話〔純太郎〕

同廿九日

夕番

同晦

並

九月〔嘉永三年〕

朔日

二日

並

三日

並

九月四日

遠山〔御前様附〕三右衛門御内用ニ而下着仕、加々〔權内〕山同道金峰山江游、暇日一日

五日

宅詩会

六日

講堂文会、諸生名録去月廿八日今調懸今日相濟、夕方遠山〔三右衛門〕出立暇

七日

並

八日

講釈小学

〔鐸村弟〕 丑三郎御築御用二付、高山権助同道八代江罷越、追記日子不的

九日

十九日

佳節、西溪釣蟹

是迄召抱候長洲産之乳母、児渴付不申候二付暇願出、其跡南岳丁ヨ

十日

宅詩會、加々山権内詩文科請持、兩人ニ加ワル〔時曾館訓導〕

廿五日

郊外詩文會、一日亭、相濟、山口先生其外一同牧市之允案内ニ罷越〔句完勝〕

十一日

〔廿六日、廿七日条無し〕

並

十二日

廿八日

並

栃伯立小祥、後家先日水津江出、所々配物仕、今日煎柴饅頭等手〔栃原五郎助〕

十三日

前ニて相認墓所江持出、石碑之儀ハ門人中力を合出来仕候二付、助之進分右之通ニ致候事、夫二付水津・手前夕方罷越、雨天ニ付拜〔栃原〕

並

啓庵借席

十四日

廿九日

御寺参拜

當番

至十八日欠記

十月朔日〔嘉永三年〕

在宿、草田中元勝墓表〔鐸村遺稿拾遺一下〕

十八日

並 二日

九日 講藝齋會、當番

三日 當番、山口助教不快二付、講論語志於道一章(仁九郎)

十日 詩会片山宅、講堂今罷越(登三郎)

並 四日

十一日 講藝齋會代宇野氏(武一郎) ○片山(登三郎) 召候而御擬作高百石被下置、御知行取格二被 仰付、訓導本役被 仰付、御役料米並之通被下置候

五日 家内、阿鶴召連、乳母・十左衛門菊池江罷越、十左衛門ハ晚帰、手前・宇十郎留守、詩会之儀ハ當月片山持(韓村子)

並 十二日

六日 並、今晚宇十郎薨ノ内江止宿(韓村子)

十三日 夕番、家内菊池今帰ル

七日 並、一書生詩文、山口翁江出置候處、近藤翁御相談之上ニて申立ニ可相成と相決、右之事ニ付、夕方尚山口翁ニ參ル、宇見今夜同上(九郎)

十四日 並、風邪氣ニ付早引(英助)

夕番 八日

十五日 休、終日在宿

十六日

並、夕方(講村子)宇十郎連、新堀市立

十月廿三日
並

十七日
文會、片山宅(堂三郎)

同廿四日
並、當番

十八日
當番

同廿五日
詩文會法念寺、早引、伊東(大作)・加藤(法善)同道、菊池江罷越、暮過着

十九日
講堂詩会如例

同廿六日
在郷、暇日

廿日
夕番、鶴崎関手永東上野村居住御惣庄屋直觸原席之助悴 佃(講村門人)事二
付、書付一通・近作詩文一卷山口翁(九郎)二差出

同廿七日
帰府、暮後着、暇日

廿一日

同廿八日
當番、松原傳右衛門御用、肥前生深江謙造至、古賀(素堂)大一郎添書
御内意之覚

澄之助様五ツ半時之御供揃ニテ講堂江被成 御出、片山講論語(細川渡久)
入則孝章、尋而句読・習書両齋江御出、背誦・席書 御覽二相成候(學而篇)
事

廿二日

君上講堂江被為入、諸生説經三座、背誦・席書等被遊 御覽、諸生(顯)
上村彦次郎・浅井新九郎・末松孫太郎也(番方)

私儀、講堂居寮江日々罷出詩文之世話仕、会讀をも誘候様被 仰
付置二付、為御心附每歳銀五枚宛被下置旨二候處、訓導助勤當分
被仰付候二付而ハ、並之通御心附等被下置候儀二付、前勤二付而
之御心附二弥ケ上二相成候儀二付、乍恐差上申度奉存候、此段可
然様被成御達可被下候、以上 十月 近藤殿
山口殿

右ハ昨年暮門岡員右衛門夕受取相渡候ニ付、疑惑之筋咄合申候處、機密問合候而根居りを以被渡下儀ニ付、受取可申もの、由申聞候得共、前文之通ニ付、今度書附差出候

同廿九日

寄合請持

同晦

並

(嘉永三年)
十一月朔日

(備村子)
宇十郎召連、向坂村吉右衛門方江罷越、吉右衛門八字十郎乳母縁付罷在候

同二日

並、柴田純太郎悴猪太郎入門、相断候末猶入塾いたす

同三日

並

同四日

並

同五日

詩会片山受持之處、(堂三郎) 柏木暇日、講堂無人ニ付夕番

打懸紙上ニ、
増奉公入望候書 差出

一、増奉公老人

右ハ、私儀来亥二月二日夕召抱申度奉存候、以上

觸頭當

名判

上二人別付 覺

一、家内・男子忒人、内老人自身、老人悴木下字十郎

右之通御坐候、已上 年号月 名判 觸頭當り

右二封、(明石投寄分) 明石三郎七江相達、但毎日當月四日迄相達候様、兼而申

来居候事

十一月六日

並、講堂文會

同七日

當番

同八日

夕番

同九日

早出、句讀会

同十日
詩会、片山受持〔喜三郎〕

同十一日

並

同十二日

並

同十三日

並、夕番

同十四日

並

同十五日

同十六日

夕番

同十七日

文会、片山受持〔喜三郎〕

同十八日

當番、講堂御用、滯塾生之内石光敬助〔鎖札石光平權 阿蘇郡医師高官員同男〕・高宮貞喜 金子式百疋宛
被下置候、宇十郎召連敬助宅江罷越〔石光〕

同十九日

講堂文会

同廿日

夕番

同廿一日

當番

同廿二日

並

同廿三日

並

同廿四日

當番、城野弥三次至〔静軒、禪村從弟〕

同廿五日

郊外詩文会延引 ○高橋員熊紐解

同廿六日

夕番、佐野亥一郎江〔時習館句読體〕柏木同道、築瀬〔眞氏密〕同様参ル

同廿七日

並、岡田左平次宅江不残参ル

十一月廿八日

並、寄合、私宅請持

同廿九日

夕番

〔嘉永三年〕
十二月朔日

休暇

同二日

並

同三日

並

同四日

並、〔韓村後妻多茂の父〕吉村喜兵衛出府逗留、今夕〔留守番方組織〕佐野浅右衛門方々案内申来候得共相

断申候

同五日

詩会、〔權内〕加々山受持

同六日

講堂又如並

同七日

當番

同八日

夕番

〔九日条なし〕

同十日

詩会

同十一日

並

□十二日

先月来郊外文会延引仕居、今日観音坂溝口殿別業にて相催候

同十六日

風邪二付引入

同十三日

講釈、雅言章并発憤志食章ヲ論ス、有吉惣教・溝口惣教、講後諸生講三座被承候、内生平川貞四郎・神戸安次郎、外生森井惣四郎、右相濟、八ッ比合近藤・山口両先生初、居寮講堂世話役迄溝口殿江被招候

同十七日

加々山宅年末詩会

並

同十八日

並

同十四日

先達而相達置候前勤二付而之御心附差上願之儀二付、右ハ御役間之不研究ニ而濟来居候二付、當年今根留ニ相成候段、学校方根取合書面之趣二付、猶又右之通

例年之通諸達調

同十九日

右同断

同廿日

私儀、前勤二付而之御心附銀五枚差上申度段御内意御達仕候處、右ハ御役間之不研究ニ而濟来居候二付、願出ニ不及、當年今根留ニ相成候段、学校方根取書面之趣承知仕候、然上ハ昨年分拝領仕候儀、安兼申候間、差上申度御坐候、此段可然様被成御達可被下候、以上

今日今休暇

同廿一日

十二月

近藤殿
山口殿

木下

同断

同廿二日

十二月十五日

町野貞、玄同と改名、御目見被為受候

同断

同廿三日

同廿四日
出勤、諸達濟、引後〔又右衛門〕柏木宅集會

休暇
同廿五日

同断
同廿六日

一、前勤二付而之御心付差上申度段内意申達置候處、上納被 仰付

旨御付紙、上納之儀ハ當暮渡銀之内今立用之儀〔弥平〕高橋江頼置候

一、當年詩文会、館外ニ而も指南いたし候ニ付、銀四枚被渡下旨、

教授願書ニ御付紙

同廿七日

同断、下津久馬殿〔千五〕隱居、嫡子熊人家督相續被仰付候

同廿八日

同断

同廿九日

同断

同卅日

同断

嘉永四年歲次辛亥正月元旦

吉書奉親書、十郎書〔字十郎〕天倫樂事数字、滯留生深江謙藏〔肥前家多入長門家中〕・

加藤傳吾〔久留米藩家老司加藤兵衛督〕・右田大四郎〔貞密四男〕・櫛原助之進〔諸役入段〕・成田梶郎〔歩段〕・辰次郎〔江藤又藏督〕・

佃〔箱島四手木東上野村惣庄屋直胤原勝之助督〕、酌屠蕪

二日

明日御禮出仕ニ付、當日迄在宿

三日

九ツ時御禮相濟、引取候上、回勤之次第左之通、〔後力〕□年之見合ニも可

相成事

水足七郎助〔鉄砲三十挺頭免隠居〕・三宮〔小姓役〕・松岡八左衛門〔穿鑿役〕・松原傳右衛門〔時習館調等〕・山田敬次〔時習館調等〕・

山口仁九郎〔時習館調等〕・平山伊一郎〔奉行所佐次役免隠居〕・平川丈助〔穿鑿役〕・小林又藏〔奉行〕・上野十平〔學校目付〕・明石三郎七〔再春館調等〕・田中司馬〔寄方根取〕・近藤文藏〔鉄砲十挺頭〕・甲野角馬〔長崎留守居〕・野々口金左衛門〔富岡三郎〕・

左衛門〔郡代〕・中村庄右衛門〔郡代〕・上村千右衛門〔郡代〕・宇野市郎右衛門〔郡代〕・大野傳兵衛〔寄方力〕・大木殿〔久馬〕・監物殿〔長岡〕・藏人殿〔津口〕・平野殿〔九郎右衛門〕・金森七郎右衛門〔小姓役〕・

門〔肥後新田藩駐敷〕・友岡三郎右衛門〔寄方組脇〕・林富之助〔寄方力〕・佐々布左内〔用人〕・松野七左衛門〔郡代〕・

定府小屋〔松井〕・鎌田左一郎〔留守中下小姓兼頭〕・財津直人〔郡代〕・御宿〔片山多門殿〕・佐渡殿〔有吉〕・

頼母殿〔免番方組脇〕・典禮殿〔時習館調等〕・堀七郎兵衛〔寄方組脇力〕・佐分利権平〔桑原大英〕・井口呈助〔時習館調等〕・

御寺〔免番方組脇〕・荻角兵衛〔時習館調等〕・辛島多喜次〔久兵衛〕・稲津殿〔高本慶太郎〕・河部駿太郎〔學校目付〕・

村井又次郎〔時習館調等〕・上田忠左衛門〔時習館調等〕・即心寺〔時習館調等〕・高瀬寿平〔時習館調等〕・道家角左衛門〔時習館調等〕・

〔若殿附目付〕 橋谷市之助・近藤英助・筑山又兵衛・村田三節・清成武右衛門・
 〔時習館教授〕 〔天守方支配頭〕 〔醫師の三折方〕 〔八十部頭子〕
 〔鉄砲二十挺頭方〕 〔時習館役〕 〔時習館役〕 〔時習館役〕
 〔中倉組頭〕 山戸庄左衛門・荒木萬藏・志方司馬助・加々山権内・吉山典午・
 〔免若殿附目付〕 池部弥一郎・木村得太郎・木村次郎左衛門方・出田十郎兵衛・
 〔時習館役〕 〔時習館役〕 〔時習館役〕 〔時習館役〕
 新美一左衛門・牧市之允・平川駿太・片山喜三郎・田中元翼・
 〔時習館役〕 〔時習館役〕 〔時習館役〕 〔時習館役〕
 清田新兵衛・石井茂助・坂梨潤左衛門・綾部四郎助・愛教四郎
 〔有吉〕 〔時習館役〕 〔時習館役〕 〔時習館役〕 〔時習館役〕
 次・市郎兵衛殿・横井左平太・柏木文右衛門・浅井新九郎・
 〔時習館役〕 〔時習館役〕 〔時習館役〕 〔時習館役〕
 友成津内・妹尾軍十郎・佐野浅右衛門・久保田権十郎・渡部喜
 〔時習館役〕 〔時習館役〕 〔時習館役〕 〔時習館役〕
 右衛門・築原逸三郎・合志多左衛門・高橋・佐田方・中村健助・
 〔時習館役〕 〔時習館役〕 〔時習館役〕 〔時習館役〕
 大城家・岡松駿甫・水津熊太郎
 〔時習館役〕 〔時習館役〕 〔時習館役〕 〔時習館役〕

四日

講堂御入、片山開講、吾非生而知章、召出後惣教授揆搦有之、於句讀
 〔宮三郎〕 〔論語一述而論〕 〔論語一述而論〕
 齋御熨斗頂戴、例之通、右九ツ時相濟引取、回勤之次第左之通
 桑木十右衛門・大里八郎次・門岡員右衛門・深水宗信・
 〔嘉永二年七月末句讀〕 〔免若殿附目付〕 〔免若殿附目付〕 〔免若殿附目付〕
 笠喜左衛門・杉原重助・遠山強彦・下河邊次郎太郎・浅香彦四
 〔時習館役〕 〔時習館役〕 〔時習館役〕 〔時習館役〕
 郎・池邊軍次・船津三右衛門・大河原栄馬・澤村殿・山崎慶之允・
 〔時習館役〕 〔時習館役〕 〔時習館役〕 〔時習館役〕
 早川十郎兵衛・大里隼之助・中嶋定雄・沼川敬内・吉村直助・右田
 〔時習館役〕 〔時習館役〕 〔時習館役〕 〔時習館役〕
 庄之助・神足軍記・宮部鼎藏・永田傳九郎・国友定雄・河北権左衛
 〔時習館役〕 〔時習館役〕 〔時習館役〕 〔時習館役〕
 門・大槻彈藏方・奥山静叔・宗幾久馬・堀内源右衛門・西村彦
 〔時習館役〕 〔時習館役〕 〔時習館役〕 〔時習館役〕
 〇・行徳文郷・山内平治・山代萬記・片岡忠右衛門・町野・松多惟
 〔時習館役〕 〔時習館役〕 〔時習館役〕 〔時習館役〕
 〇・河野仁左衛門・米村・江口
 〔時習館役〕 〔時習館役〕 〔時習館役〕 〔時習館役〕

五日

回勤左之通
 〔醫師〕 〔醫師〕 〔醫師〕 〔醫師〕
 加来元恭・尾形謙寿・寺田丈右衛門・井上勝藏・小山道詮・中村敬
 〔時習館役〕 〔時習館役〕 〔時習館役〕 〔時習館役〕 〔時習館役〕
 太郎・永田信助・木原彦之進・澤村宮門・入江傳右衛門・伊藤角
 〔時習館役〕 〔時習館役〕 〔時習館役〕 〔時習館役〕 〔時習館役〕
 次・益田源七・深水橋齋・門岡忠藏・坂口・山口三五左衛
 〔時習館役〕 〔時習館役〕 〔時習館役〕 〔時習館役〕 〔時習館役〕
 門・飯田豊助・岩崎男熊・真野源之助方・吉田潤之助方一應引取・
 〔時習館役〕 〔時習館役〕 〔時習館役〕 〔時習館役〕 〔時習館役〕
 手・島宇助・武田儀助・中山加一右衛門・池松大八・
 〔時習館役〕 〔時習館役〕 〔時習館役〕 〔時習館役〕 〔時習館役〕
 葉室慎助・花田源左衛門・湯地丈右衛門・牧貞喜・堀内久
 〔時習館役〕 〔時習館役〕 〔時習館役〕 〔時習館役〕 〔時習館役〕
 左衛門・野村佐一右衛門・築瀬驥兵衛・本山和平・久本寺・御葉
 〔時習館役〕 〔時習館役〕 〔時習館役〕 〔時習館役〕 〔時習館役〕
 園・佐野亥一郎・北野隆右衛門・富田宗栗・平塚・増田十郎左衛
 〔時習館役〕 〔時習館役〕 〔時習館役〕 〔時習館役〕 〔時習館役〕
 門・北川藤作・明石謙太郎・太田十郎右衛門・清原次兵衛・田久
 〔時習館役〕 〔時習館役〕 〔時習館役〕 〔時習館役〕 〔時習館役〕
 右衛門・中村助作・尾崎文之允・佐久間角助・田中三郎次・高田十
 〔時習館役〕 〔時習館役〕 〔時習館役〕 〔時習館役〕 〔時習館役〕
 之進・久野勘十郎・永田三郎兵衛・福岡・國友・杉本・善正寺
 〔時習館役〕 〔時習館役〕 〔時習館役〕 〔時習館役〕 〔時習館役〕

六日

旧獵引續相詰候面々、右田大郎・加藤傳・吾・成田梶郎・
 〔時習館役〕 〔時習館役〕 〔時習館役〕 〔時習館役〕 〔時習館役〕
 深江謙藏・栃原助之進・辰次郎・
 〔時習館役〕 〔時習館役〕 〔時習館役〕 〔時習館役〕

七日

本庄方角打廻り、古庄八太・石光敬助・坂田豊・大浦範之助・
 〔時習館役〕 〔時習館役〕 〔時習館役〕 〔時習館役〕 〔時習館役〕
 木村太郎次・野尻正藏・江藤又右衛門・内藤尉右衛門
 〔時習館役〕 〔時習館役〕 〔時習館役〕 〔時習館役〕

八日

九日

御用番之申渡御用御坐候間、明十一日四時分、御花畑江罷出候様、御奉行中分之御達

十日

塩谷甲蔵書至、浴澤遺香一卷差越、宮崎貞太郎書至

十一日

御殿江出候上御申渡、其方今當年異国船渡来之節御手當被 仰付、加賀山権内三月中引替被仰付候、右二付物奉行監物殿、御備頭三測殿打廻り

十二日

夜、木下初太郎・矢嶋忠左衛門・三村傳之助・福島龜之允・津次郎至、飲

十三日

赴館、講釈 柏木、尋而始出之式、賜餅酒如常例

十四日

雨、左氏、無不行

十五日

赴館、丑三郎出府

十六日

同、丑三郎帰在

十七日

宅文會受持

十八日

講釈

十九日

講堂詩会

廿日

夕番

廿一日

當番、小太郎・徳太郎・高山謙太出府

廿二日

並番

廿三日 〔嵯峨〕
同、小太郎・謙太婦在

晦日
八ツ過今菊池江罷越、夜分着

廿四日

〔嘉永四年〕
二月朔日

當番

在菊池

廿五日

二日

今月例無郊外、並番

雨天、婦府、小池原松山にて路踏違、竹迫道江出、夕暮二着 ○此

廿六日

日暇日

夕番

三日

廿七日

御入、山口講積、畢而榭之様被遊 御移候

並番、夜四ツ比拳児、假名小十郎改小吉 ○今朝米良倉次郎、長崎
江主用之序来訊 ○出生之儀、追而表向相達候筈

梅窓吟
此日夕方より風雨強ク、産婦氣分相障 ○上村妻、長病之末斃

廿八日

四日

當番、明日 御入之御達有之

雨天、病中二付一日引入

廿九日

五日

五ツ半時之御供揃にて、講堂 御入、中津海・生駒・大城、講積被
仰付候

片山宅請持詩会、講堂出席之上罷越

六日

講堂文会例之通、(韓村弟)德太郎伊倉之様罷歸

七日

當番、此夜雨雹雷

八日

夕番

九日

朝出句讀生会、山本郡草場村源右衛門召抱、先月廿七日今入込、今日暇出

十日

(答三郎)片山宅請持詩会、赴堂後罷越

十一日

並番

十二日

並番、去ル六日夜江戸江罷越居候成瀬(鉄砲二十挺頭)十助列船、周防沖ニて難船、同人・小倉若黨式人外、那須七右衛門・谷口宅平・増永忠之允・野田佐十郎等、都合九人溺死

十三日

夕番

十四日

並番

十五日

在宿、塾生新門取遣、舊門出府之面々年杯

十六日

夕番、菅尾手永下小山村改吉召抱

十七日

(答三郎)文会片山宅請持、赴堂後罷越

十八日

當番、(船崎関手水東上野村惣庄屋藤原勝之助替)儀学問心懸能致出精候二付、御郡代直觸被仰付段、於御郡代間申渡有之

十九日

講堂詩会例之通、佃御祝、塾中并外今も集飲

廿日

夕番、(監物觸上)長岡壱岐殿御目見、昨日被為受候段知七有之、今日欲二罷越

廿八日

當番、夕方片山宅集會受持、出生小兒宮參、名木下小吉

廿一日

當番、(番方)友成津内家督被 仰付候二付罷越候、此夜雷雨

廿九日

夕番、詩文取揃二付朝夕出、雨夜分二至益強、白川出水一丈二尺

廿二日

並番

卅日

並番、(岩殿)塩谷甲藏・(元水百藩學部)宮崎定太郎江追々之返事仕出

廿三日

並番、講釋論語

(嘉永四年)
三月朔日

講堂江式之 御入、諸師役召出

廿四日

當番

同二日

並番

廿五日

並番、追而 御題詩文取揃二付、郊外會休

同三日

佳節、御禮出仕

二月廿六日

夕番

同四日

並番

廿七日

並番

同五日

詩会加々山請持 (權内) ○村井隱居同伴、(三九附日付之)江藤又藏案内二付罷越

貴殿儀御用有之候間、明後七日四ツ時分、拙者同道、御花畑江罷
出可申旨、御奉行所御達有之候条、可被奉得其意候、以上

三月五日

留守席中本姓雜題
堀七郎兵衛

木下宇太郎殿

右二付近藤(英助)・稲津(久兵衛)・堀(七郎兵衛)氏御請、加々山(権内)・片山(喜三郎)・柏木(文右衛門)・真野(源之助)・
築瀬(彌兵衛)・佐田(右平)・高橋(弥平)・大城(太郎右衛門)・山口(仁九郎)・上野吹聴(十平)、夜帰、為知状六拾餘、
書生今相認

六日

講堂文会、早引(長門)、監物殿(溝口)・藏人殿(久馬)・下津殿隱宅吹聴罷越

七日

五時過御殿江出答、九ツ前御用有之

其方儀、時習館訓導本役被 仰付、御足給拾石并御役料銀、並之
通被下置旨被 仰出之

御家老廻り、七ツ比帰宅、夜分ニ懸来客七十計

八日

夕番

九日

並番

三月十日
詩会(権内)加々山宅、講堂無人二付赴堂仕候

十一日

御禮、兼而御達二相成居 御發駕前無御日昆御付、以目錄被遂披
露、其段御小姓頭今可被及達筈二付、麻上下着四ツ時御殿江罷出、
昼比相濟

十二日

並番

十三日

夕番

十四日

並番、大城(半頭)太郎右衛門明日御供立二付、夜罷越

十五日

御發駕杭場江罷出、御母様御出府

十六日

夕番

十七日

加々山宅文会、講堂無人二付罷出、夕方神護寺江罷越、米良倉次郎(豊後日藩士)
嶋原和光院参り居、詩酒為歎

十八日

講釈當番、山中平左衛門宅賞石楠花、与加々山俱焉(權内)

十九日

講堂詩会、並之通

廿日

夕番、武井亨・妙解寺納所裕首座・湖上祐之来、祐之入塾 ○是(天字府延喜土院内)
日、柳川牧園謙之助・村山謙一入門、謙之助入塾(牧園)
(柳川藩医)

廿一日

並番、宮部鼎藏、明日市郎兵衛殿二付而江戸江立候二付、塩谷江手(右衛門)
紙遣ス(諸御役車学)

廿二日

並番

廿三日

同上

廿四日

當番

廿五日

文會吳淞半江樓、帰路集加々山宅、与山口翁夜帰(權内)
(九郎)

廿六日

夕番

廿七日

當年、異國船渡来之節御手當被仰付置、今日夕受持、但与加々山引(權内)
替候事

廿八日

加頼卿浴泉南遊(加々山權内)

廿九日

夕番

四月朔日(嘉永四年)

御母様・家内・牧園健之助召連、浄道寺二遊、帰路沼田氏後彫園二(權内)
□崎大作ヲ賀スル為塾生罷越居候二立寄、暮候而引取(子助)

同二日

並

同三日

影宋本尚書正義一部、贈進〔伯順〕桑滿先生

同四日

並

同五日

今月詩文會請持、夕方荻角〔荻角茂徳〕至、義士〔宗徳義人蘇也〕纂書序文代搆出來いたし候得共、心二不叶事

同六日

並、講堂文會

同七日

同八日

夕番

同九日

講藝齋初會

同十日

詩会

同十一日

並

同十二日

並

同十三日

夕番、加積〔加々山權四〕卿歸省南遊

同十四日

妙解寺參拜、並

同十五日

休暇、明日火刑有之〔韓村母〕二付、北堂御供場所見物、家内共皆參、石光敬助宅休、又見江藤〔鎮礼石光幸徳〕又藏庭〔二丸附日付力〕 ○於見性寺ケツセイ初ル

同十六日

當日小兒出生達任、産穢引入相達、今日坂下手、永岩崎村松五郎、於下河原火刑有之、尤町中引廻之上也、松次郎罪條追而扣可申候 ○於首藤格次至

同十七日
引入、文會之儀〔管三應〕八片山江頼、〔蘭應〕高山謙太至

同十八日

引入

同十九日

引入

四月廿日

引入

同廿一日

引入

同廿二日

引入、右引入中、搆奥州磐城土鍋田〔三善〕舍人赤穂義人纂書序、未全完

同廿三日

出勤、並

同廿四日ヨリ廿九日迄記録欠

同卅日
御母様菊池江御婦二付丑三郎出府、手前も〔釋科子〕宇十郎も同様御供仕、罷越

五月〔嘉永四年〕

前月中十郎〔字十郎 時習館書師〕、石井茂助江書法入門

朔日

在菊池

同二日

在菊池、暇日

三日

雨中二〔釋科子〕字十郎ヲ携帰府、暇日

四日

並、是ヨリ月末迄記録欠 ○廿五日今お鶴河内江入湯、廿五日

〔妙解塔頭〕臨流庵□詩文会

御奉公之覚 半紙封印、尤自筆也

私儀御留守居御中小姓被 仰付、御切米拾石二人扶持并式人扶持

之御足被下置、時習館訓導助勤當分被 仰付置、去嘉永三年六月

朔日今當嘉永四年三月六日迄日勤仕候内、病中二而日数三日不参

仕候

一、當嘉永四年三月七日、時習館訓導本役被 仰付、御足給拾石
并御役料銀並之通被下置、同五月廿九日迄日勤仕候内、産穢二
而日数七日不参仕候

當年四十七歳罷成申候

右之通御座候、以上

嘉永四年亥六月

木下—印判

(奉行、吉左衛門)
佐田右平殿
(奉行)
上野十平殿

(嘉永四年)
六月

朔

雨天、在宿

六月二日

當年御奉公附持参前二付、(武一郎)宇野・(敬次)山田・(眞成能)築瀬・(権内)加々山・(又右衛門)柏木・(三郎)片山
并自分分、御奉行所江持参、當番佐田右平其座二而被受取

同三日

並

同四日

(韓村娘)
同、おつる河内よりかへる、胎毒少しハ瘡へ候

同五日
詩會、(権内)加々山請持

同六日

並、講詩

同七日

同

同八日

同

同九日

同

同十日

詩會(権内)加々山請持

同十一日

並、撰近藤母河部(韓村遺稿拾遺下)孺人墓誌銘贈之

同十二日

並

並 同十三日

同廿日
夕番、(釋村忠)德太郎南關江帰省

同十四日

同廿一日

御寺参拝、御祭禮

當番、夕方早引、菊池江打立居處、(釋村忠)丑三郎出府、内話有之、明朝同

同十五日

道帰山□□候處、右田三三郎馬帰候ニ付、乗帰具候様平山貞五郎江頼来、貞五郎参り合セ、(右忠)大四郎一同登道候而手前用ニ立可申との事

休暇

ニ付、七ツ後分打立、右馬ニ乗罷越候、(釋村忠)丑三郎ハ跡ニ残、明朝□□

同十六日

□□筈、途中ニ而雨至、夜四ツ比菊池へ着、(謙太)高山宅ニ而馬ヲ三三郎江相渡し候、三三郎今日帰り来申筈之處、跡分打立、羽田ニて追付候

並

へとも、馬ハ是非是方江のせ参申し候、夫分暫内話〔数字破損〕新

同十七日

六月廿二日 暇

(權内)加々山詩文会受持之處、先々月在郷ニ参候ニ付、(宮三郎)片山江一度頼被置を逃返り、今日自分宅ニ而相勤、来月中受持可申筈 ○(蘭梅)高山謙太内用ヲ以出府、即日帰

朝晏起、御母様御法事之為ニ中町ニ被遊御出候、其御跡ニて(釋村忠)小太郎、塾中之者一件ニ付段々取計、夕方(釋村忠)丑三郎帰候間及相談、(晚香)洪江徳

同十八日

三郎・松本藤四郎有合之兩人呼寄、本宅分内江承知之事有之候 ○御母様御持病被為起候ニ付、今晚御帰無御坐段申来候ニ付、(釋村忠)丑三郎

並番 ○(釋村忠)小太郎以内用出府

先罷越、我等夕方罷越候、御熱勢強御兇言も被為有候、然し毎モ之御持病ニて外ニ御腰痛加リ候

同十九日

同廿三日 暇

並番、(釋村忠)小太郎帰

御氣分大分御直り被遊候、旧里之方内用有之ニ付、調事御坐候旨申

出候而早朝引取、跡ハ^(丑三郎)丑罷越、我等ハ^(韓村弟)小太郎一同内用相弁、
德永恒太郎呼寄、嘶承候而尚又相返し、夕刻今猶中町江罷越候、御
氣分弥以御宜敷候

同廿四日

城野弥三次旅行^(社林)付、拂曉祖^(社林)雨至、四ツ比御駕ニ而母上御
帰、御膝立被遊候、昨夜^(謙太郎)小太郎宅江高山^(謙太郎)り、今日同道^(謙太郎)江罷、
德永礼八嘶合、帰り懸謙齋墓參、但今日迄暇日寄七候而之帰省ニ有
之、明日迄帰府成兼候而、昨日便宜ニ看病逗留之儀、^(権内)加々山・^(宮三郎)片山
迄頼越候、明日郊外詩文会も頼越候事

同廿五日 看病

小太郎宅江、恒太郎^(謙太郎)其外詰合候、^(浪江)徳三郎・貞彦列寄七候而酒ヲ
給候事、尤内輪取扱之儀御母様御氣付被遊候故、略々申上候事、
高山も参り候、暮今夜ニ懸雨殊甚

同廿六日 看病

終日侍病、夕方於小太郎宅諸生講釈・臨讀等承候

同廿七日

拂曉出立、途中ニ而承候へハ、追間川出水二丈ニも及可申、水次橋
上手塘破損、蟠亢田地荒候由、木野川・相良川非常之出来、流失之
人家も有之、上内田富田某溺死、本川筋水害非常之事之由、此日四

ツ比着、直ニ出勤、去ル廿五日水前懸屋ニ而會有之候由

同廿八日

講釋、當點、小学説畢、當番も相勤候事、集會^(張氏衛)築瀨

同廿九日

並

七月

朔

先月廿四日、^(野島)柏木文右衛門御^(作事所目付)列ニ被仰付候、村上久太郎拜領物
有之、^(権内)加々山申談、川尻江罷越、久太郎詰所江飲^(村七)、終日川船ニ
而漁且納涼、夜刻^(権内)帰

七月二日

並

三日

助教講釈操出

四日

並

五日

宅請持詩会、當月手前

六日

講堂紀事会

七日

並、尤此間所々暑氣見舞、往来共々記不申候

八日

夕番

九日

講藝齋会、當り懸

十日

詩会

十一日

並

十二日

並、(森有集卷七) 本山和平〔数字破損〕座席二付□噲仕居候

十三日

講釋論語 ○阿蘇大宮司二男惠良豊三郎・同家来宮川喜七郎学校座席之儀二付、一旦教授局江伺出、佐貳役江被問合候上、猶又見込之筋とも今日相伺候

十四日

妙解寺参拜、暮比龍田山見繕 ○隈府町宗四郎今日果申候段、(町野) 夕為知来ル、今明休暇之事二付、十六日一日忌中相達、引入可申被と存候事

十五日

在舍

十六日 忌中

宗四郎二付忌中相達、今日一日引入申候事

十七日

宅請持文会

十八日

當直、(顯兵衛) 築瀬講起孟子序説

十九日

講堂詩会並之通 ○御母様御用有之趣ニ付、今日早引七ツ比今打立候得共不果、夜半今打立北山ニ向フ

法念寺ニ於而詩文会、〔英助〕近藤先生無出方、句讀今井口・〔角左衛門〕道家・〔源七〕益田・〔源太郎〕西村等至

廿日

同廿六日

朝五ツ比旧里江着、昼後惣四郎吊儀の為右田喜十郎江罷越、且□□□ナリシカ、月齋と申老書畫□妻を連高山江参り、衛藤□□之同姓□塚□号松琴者モ参り居、稽古所ニ而齋会仕候と申ニ付、中町夕□越、夜分福島江立寄、旧里之様引取、〔韓村弟〕小太郎同道

夕番如並
同廿七日
同様

七月廿一日

同廿八日

昼迄在宿、午後高山江参ル、夜遅ク帰ル

早朝、於新講堂集会

同廿二日

同廿九日

七ツ過今打立帰府 ○以上三日ハ講堂御作事ニ付休学、暇日ニ不及事

〔權内〕加々山・〔文右衛門〕柏木・〔津内〕友成同道、夕方火術見物ニ江東江至、宇十郎召連

同廿三日

晦日
入江傳右衛門白金御附□被 〔若殿〔源平〕附〕仰付、今日發足

出勤如並

同廿四日

八月 〔嘉永四年〕
朔

同様

同廿五日

並
二日

三日
並、講釈

四日

並

五日

詩文郊外會、當月片山受持、今日如並宅ニ集ル

六日

並、阿蘇二男主從座席伺濟来ル

七日

並

八日

夕番、佐藤熊三郎事ニ付、下津隱居江參る

九日

並、講藝齋助会

十日

詩会片山宅集□、西村彦助・真野豊彦同道、野其江□□業ニ遊

フ、夜深更〔数字破損〕ス

六月十一日

並

同十二日

並

同十三日

夕番

同十四日

妙解寺参拝、赴堂

同十五日

御祭禮、朝随兵二字十郎、洪谷・湖上両生ヲ携

同十六日

夕番 ○井戸不丈夫ニ付、戸坂村半助と申者江養直サス

同十七日

片山差支ニ付、加々山宅ニ会受持 ○井戸沙地ニ而四方ニ崩レ候ニ付、井檻ヲ入ル、夜片山来テ中村敬太郎事ヲ内分申聞ル

同十八日

講釈点前説孟子首章 ○今日迄モ井戸見込不極、二重わく之見込も候處、半助了簡ニ而わり木三段ニ入レ之ヲ防ク

同廿五日

郊外詩文会、沙鳥蠟締所川端之官宅、春木権七(吟味役)・永野金吾江懸合借受罷越、尤雨天ニ有之候、藤先生無出席

同十九日

講堂詩会、早引 ○井戸今日桶皮入レ、水上三尺餘卷立ル ○帛口源二郎事、片山(喜三郎)今内分申聞候儀有之候ニ付、石光敬助(韓村門人)・原佃(韓村門人)、宇土在江罷越

同廿六日

新講堂、路次中今間道出来

同廿日

夕番 ○井戸卷立八分相濟□石光□□宇土今帰ル

同廿七日
御母様、今日今小太郎(韓村弟)・おたち・おはつ被召連、垂玉江御入湯

同廿一日

並 ○井戸卷上ケ終、入用惣而五百目餘

同廿八日
朝新宅寄合

同廿二日

並、昨廿一日夕習書御作事ニ付、中門留居寮生、楯通之路筋差塞リ

同廿九日
片岡忠右衛門、片岡□郎熊養子ニ□□□引越申候ハ、為知越ス

同廿三日

並、段々及咄合

朔日
在宿

同廿四日

並

二日
並

三日

並

終日在古耕廬

四日

〔十一〕日
歸府、〔天本郷〕福島同道

並、此日御入湯〔時習園池〕御帰之由

五日

郊外詩会、〔雜内〕加々山請持之事

本卷

止於嘉永四年辛亥九月十一日
〔以上、日記九卷終わり〕

六日

並、中村敬太郎、去月十六日於〔時習園池〕片山喜三郎宅及過酒、其末追廻御門
内ニ於□□ニ無法之振捌有之、組頭〔片山〕分追込被申付候段、喜三郎分
為知

七日

〔八〕日

八ツ過〔雜村門人、河原惣作、原龜之允、菅〕福島大太郎連、菊池江罷越、夜ニ入本宅ニ着

〔九〕日

平山源作・〔静軒、雜村從弟〕城野弥三次を尋ル、夜帰

〔十〕日